

2021年度第2四半期決算説明会

2021年11月24日

石原産業(株)

URL <https://www.iskweb.co.jp>

＜お問い合わせ先＞

取締役常務執行役員

財務本部長 川添 泰伸

目次

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

1 | トピックス

2 | 2021年度 第2四半期実績

3 | 2021年度 業績予想

4 | 事業別 業績概要

5 | 付属資料

トピックス

社長ごあいさつ

取締役社長 高橋 英雄

「Vision 2030 Stage I」の骨子

中計「Vision 2030 Stage I」の基本方針

ESG・SDGs視点での経営の取り組みを強化することにより、サステナブルな企業価値創造を目指す。

FY2023経営目標

■ 連結売上高	1,250億円超
■ 連結営業利益率	13%以上
■ ROE	10%以上
■ 株主還元方針	安定的かつ連結業績を反映した配当の継続

戦略の方向性

経営全般：■ ESG・SDGs視点でのサステナブルな経営の取り組み強化

無機化学事業

■ 新たな価値創造で環境と情報化社会の進展に貢献

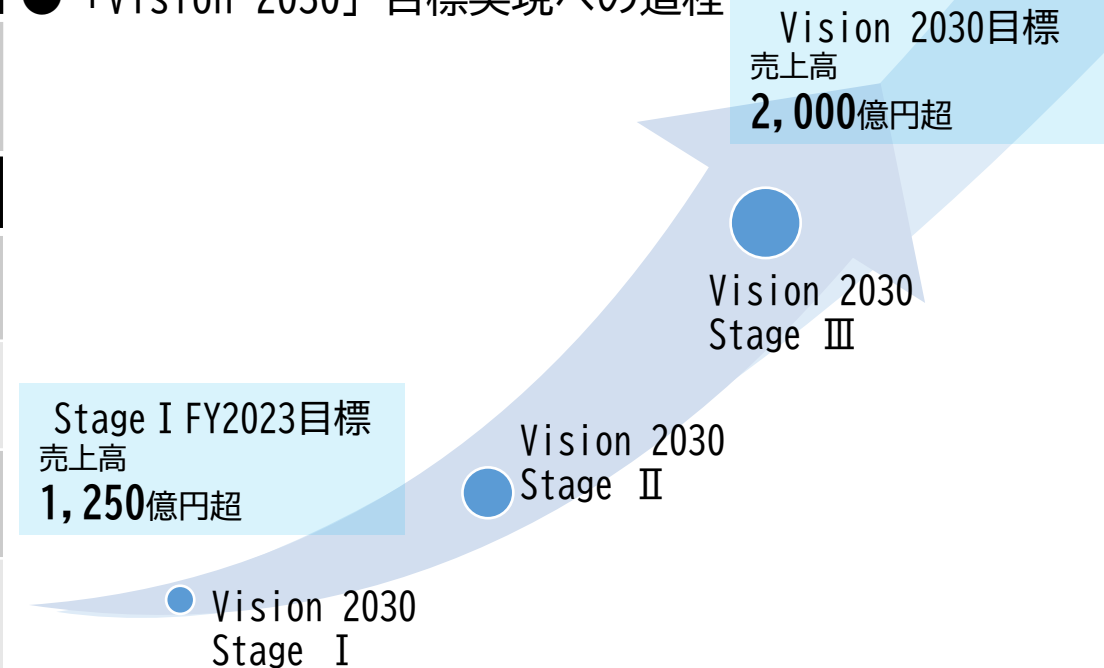
有機化学事業

■ 世界の人々の食、健康、生命への貢献

研究開発

■ 技術革新への挑戦

● 「Vision 2030」目標実現への道程



「Vision 2030 Stage I」の全体像

各事業の重点施策

無機化学事業

- 高機能・高付加価値品の販売比率向上
- 電子部品材料と導電性材料の拡販戦略の実行
- 更なる成長ドライバとなる新製品の開発加速
- 主原料鉱石の有利調達の実現
- 廃棄物低減や製造および業務プロセス改善による四日市工場のコスト削減の推進
- 製造拠点の最適化に向けたマスタープランの始動
- 温暖化ガス削減に向けたロードマップ作成

有機化学事業

- 主力農薬原体の世界一低コスト製造と安定供給により当社世界市場占有率の拡大
- 次期主力農薬の製造コスト低減と需要拡大
- バイオラショナル分野の開発・商品化とIPM深化
- 農薬の販社複数起用など戦略的・革新的な営業施策の実行
- 世界各国での農薬登録の取得・維持
- 化学合成技術の錬磨と伝承の基盤強化
- 動物用医薬品のグローバル展開

両事業共通

- トップライン（売上）の拡大
- 新事業/新製品創出力の強化
- 「Vision 2030」に向けた社内の構造・意識改革

資本政策

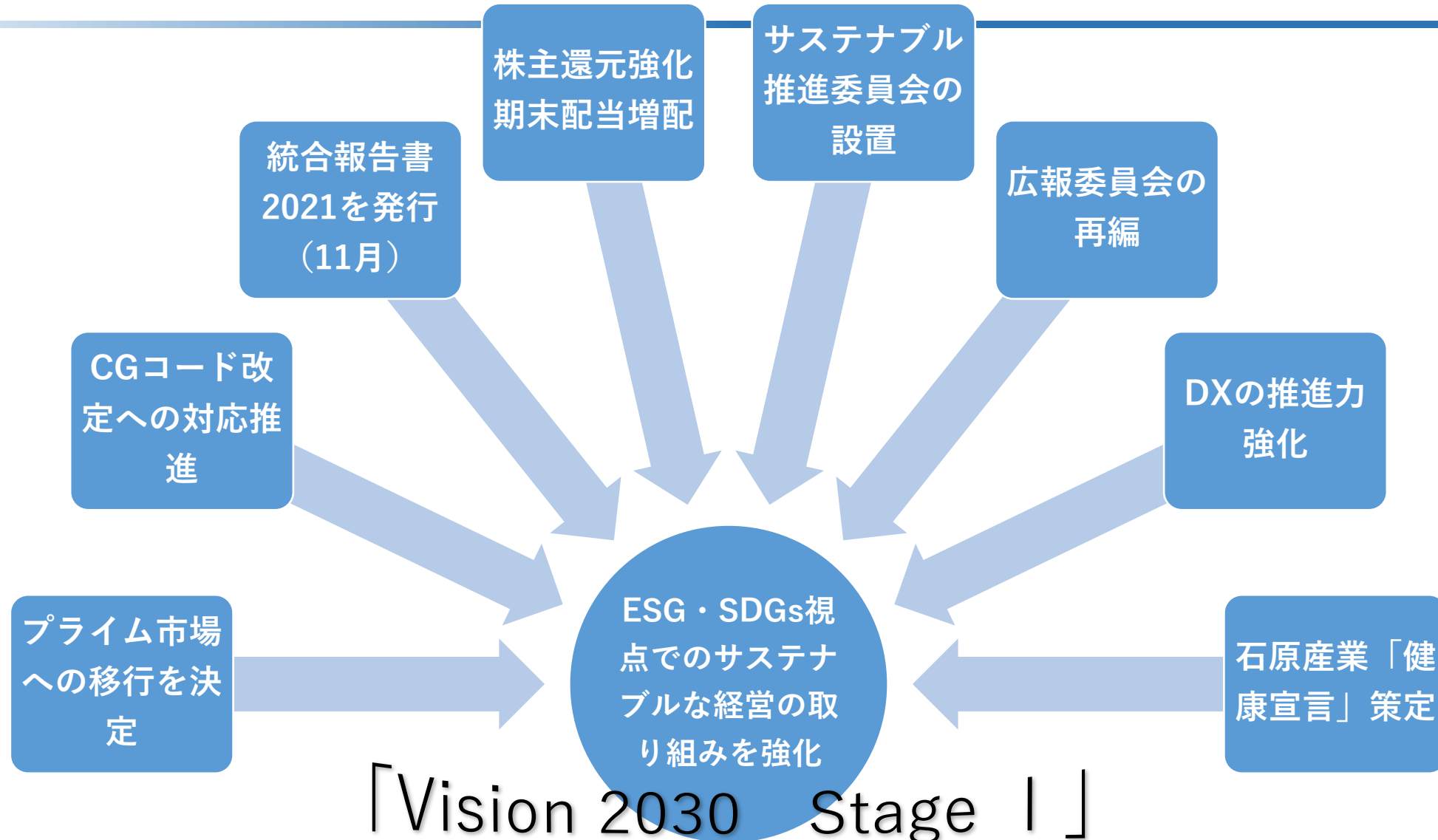
- 株主還元の強化（安定的な株主還元の継続）
- 資本コスト経営の徹底
～キャッシュ・コンバージョン・サイクル全体の改善など～

経営全般

SDGs視点でのサステナブルな経営の取り組みの推進・強化

- ESG・SDGs視点での経営を通じた事業機会の拡大
- マテリアリティ（SDGs）の特定、マテリアリティに関連する取り組みの強化
- DXの推進、業務効率化による働き方改革
- コンプライアンス経営の継続・強化
- リスクマネジメントの強化

上半期の取り組みの成果



当第2四半期決算のトピックス

- **無機化学事業**は、自動車および建設用途向けなどの需要回復が進むとともに、電子部品材料分野の需要が拡大して**増収**。アジア地域での価格改善と操業度の改善により、**増益**。
- **有機化学事業**の主力農薬は、安定的な農業生産を維持するために不可欠な資材として、引き続き海外販売を中心に堅調に推移。天候異常などの影響を受けることなく、**増収増益**。

2021年度 第2四半期連結業績

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

● **売上高 561億円**

(前年同期比 7.3億円増)

■ **営業利益 48億円**

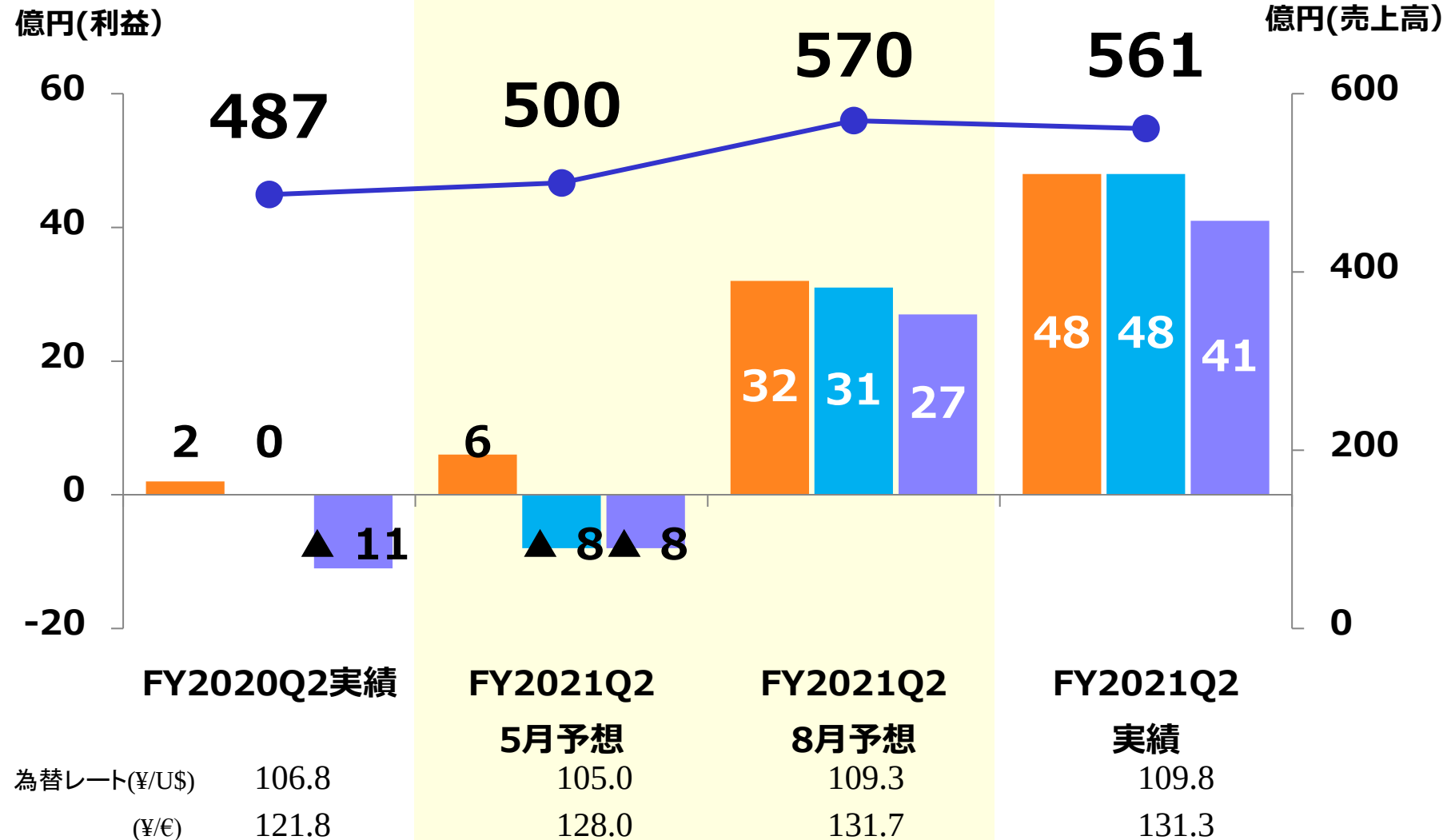
(前年同期比 4.6億円増)

■ **経常利益 48億円**

(前年同期比 4.7億円増)

■ **純利益 41億円**

(前年同期は11億円の純損失)



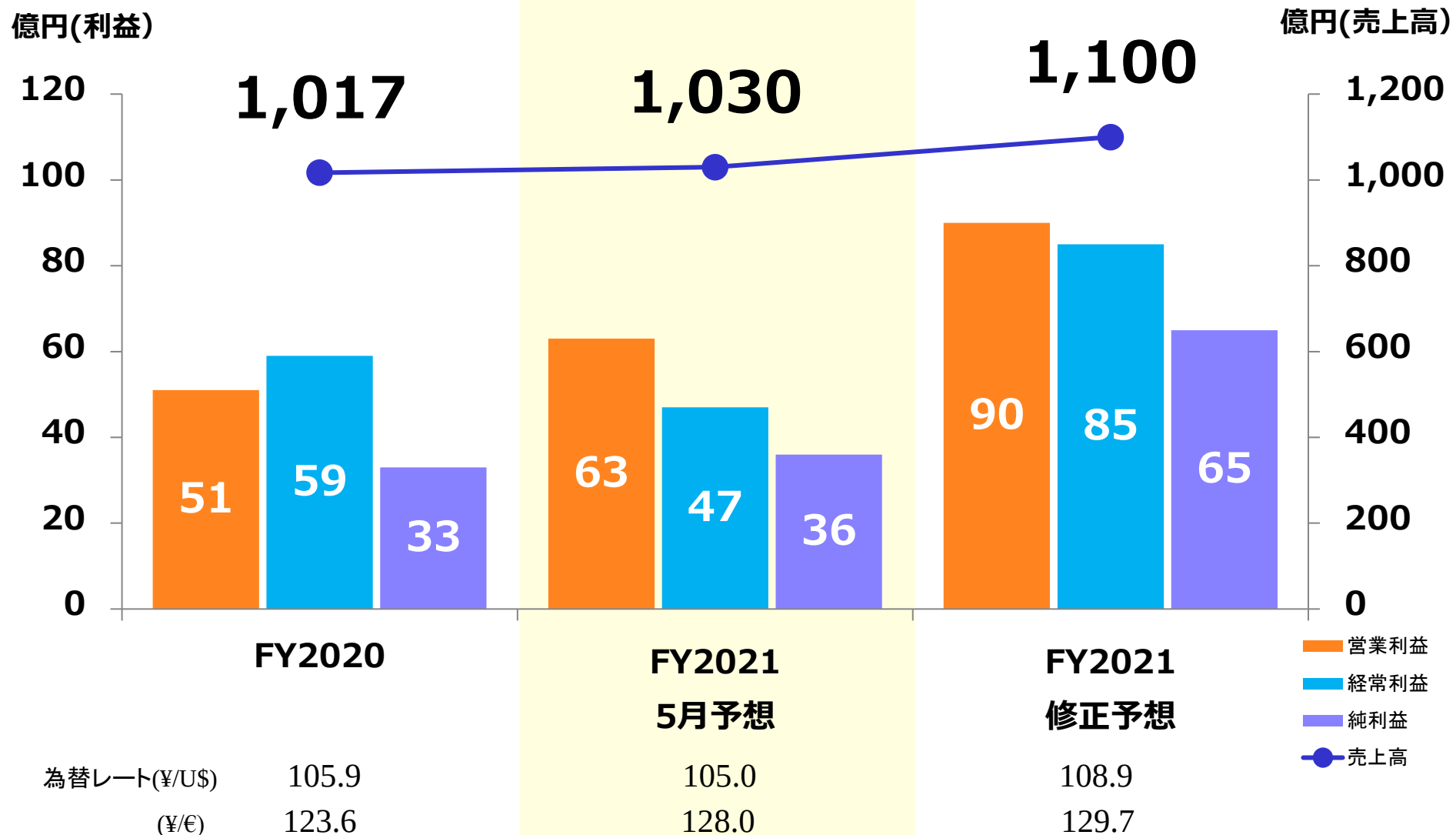
2021年度業績予想のトピックス

- **無機化学事業**では、原燃料価格の高騰が懸念されるものの、酸化チタンの国内およびアジア地域での販売価格改定浸透による収益改善が見込まれる。
- **有機化学事業**の主力農薬は、欧米で殺菌剤の販売が好調であるなど、引き続き海外販売を中心に堅調な販売が見込まれる。
- 第2四半期までの業績を踏まえ、**予想数値を上方修正した**。
- ただし、足下では、「半導体などの部材の調達難」や「海上コンテナの手配難」などによりサプライチェーンに混乱をきたすとともに、「中国経済の減速」や「同国での電力供給制限」、「世界的な燃料・資源価格の上昇」などの不確定要因が多発し、予断を許さない状況である。

2021年度 通期連結業績

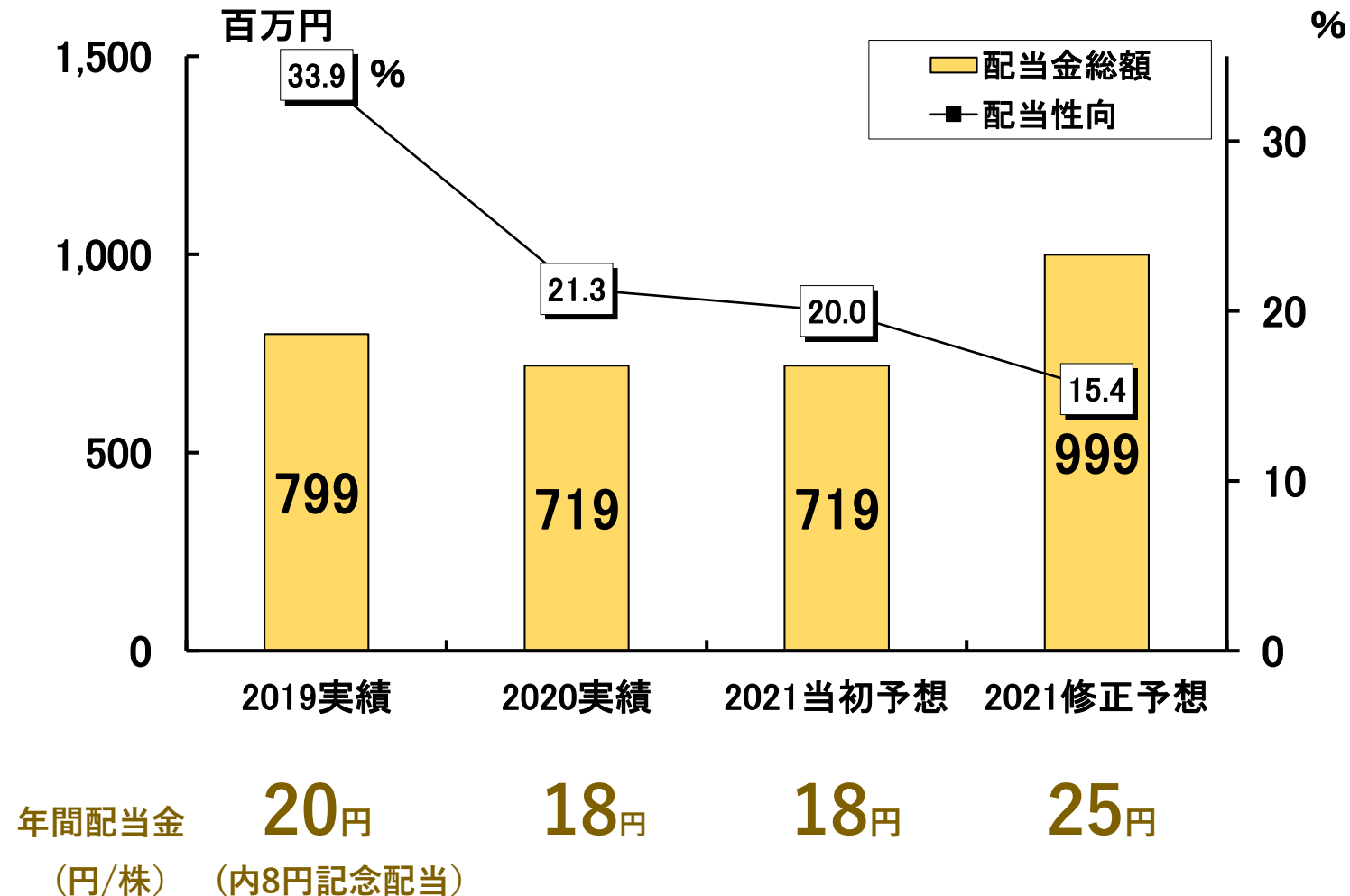
Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」



株主還元

- 企業価値を高めるとともに、株主の皆様へ利益を還元していくことを経営の最重要政策の一つと位置付ける。
- 配当は、業績動向、財務状況、将来の事業展開に必要な内部留保の充実等を総合的に勘案しながら業績に応じた安定的な配当の継続を基本とする。
- このような配当方針に基づき、業績予想の修正を勘案し、2022年3月期の期末配当予想については、直近の配当予想から7円増配し1株当たり25円に修正する。



2021年度 第2四半期実績

為替レート	2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期
米ドル (円/U\$)	106.8	109.8
ユーロ (円/Eur)	121.8	131.3

2021年度第2四半期実績

- 無機化学事業では経済活動回復に伴い、酸化チタン、機能性材料の需要が回復、有機化学事業では農薬の海外販売が堅調に推移し、両事業とも前年同期比で増収増益
- 為替円安も追い風となった

(単位; 億円)	2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	増減	2021年度 第2四半期予想 (2021年8月)	差異
売上高	487	561	73	570	△ 8
営業利益	2	48	46	32	16
経常利益	0	48	47	31	17
純利益	△ 11	41	53	27	14

2021年度第2四半期 事業別業績

<無機化学事業>

- 酸化チタンは、国内外ともに自動車及び建築関連を中心に需要が回復。アジア地域では販売価格改定。
- 機能性材料は、電子部品用材料が自動車関連や5G関連で需要が大幅に増加したことに加え、導電性材料の帯電防止用途販売の増加。
- 酸化チタン、機能性材料ともにCOVID-19以前の水準を上回る業績。

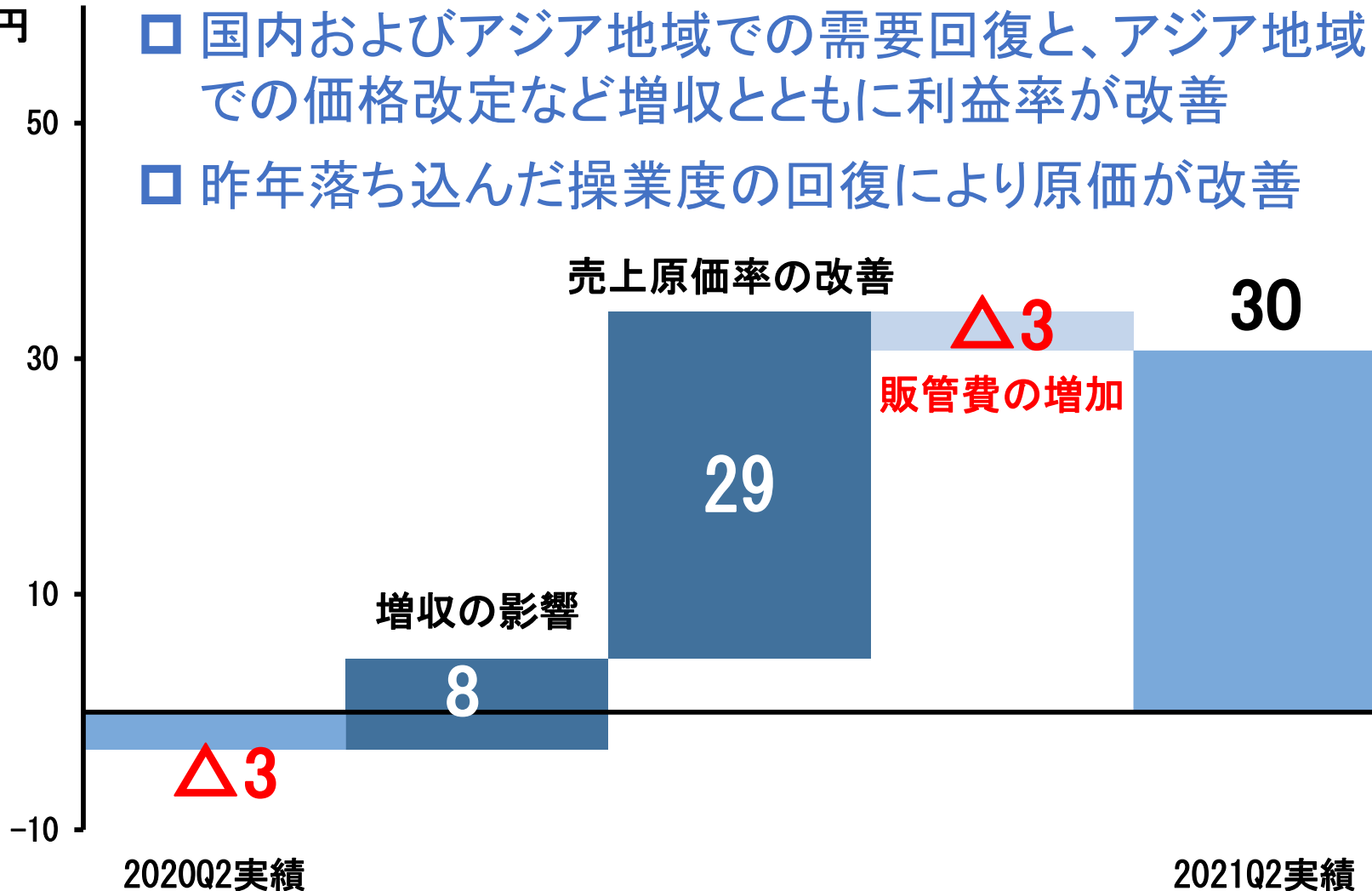
<有機化学事業>

- 主力農薬の海外販売は、欧州で殺菌剤や除草剤の需要増加などで増収となり、米州でも流通在庫の改善が進み、殺菌剤や殺虫剤の販売が好調に推移。またアジアでも殺菌剤の販売が堅調に推移したことなどで増収。
- 国内販売については、「収益認識基準に関する会計基準」等の適用の影響が△7億円あったことに加えて、主力殺虫剤の販売減により前年同期を下回った。
- ヘルスケア事業については、前年同期並み。

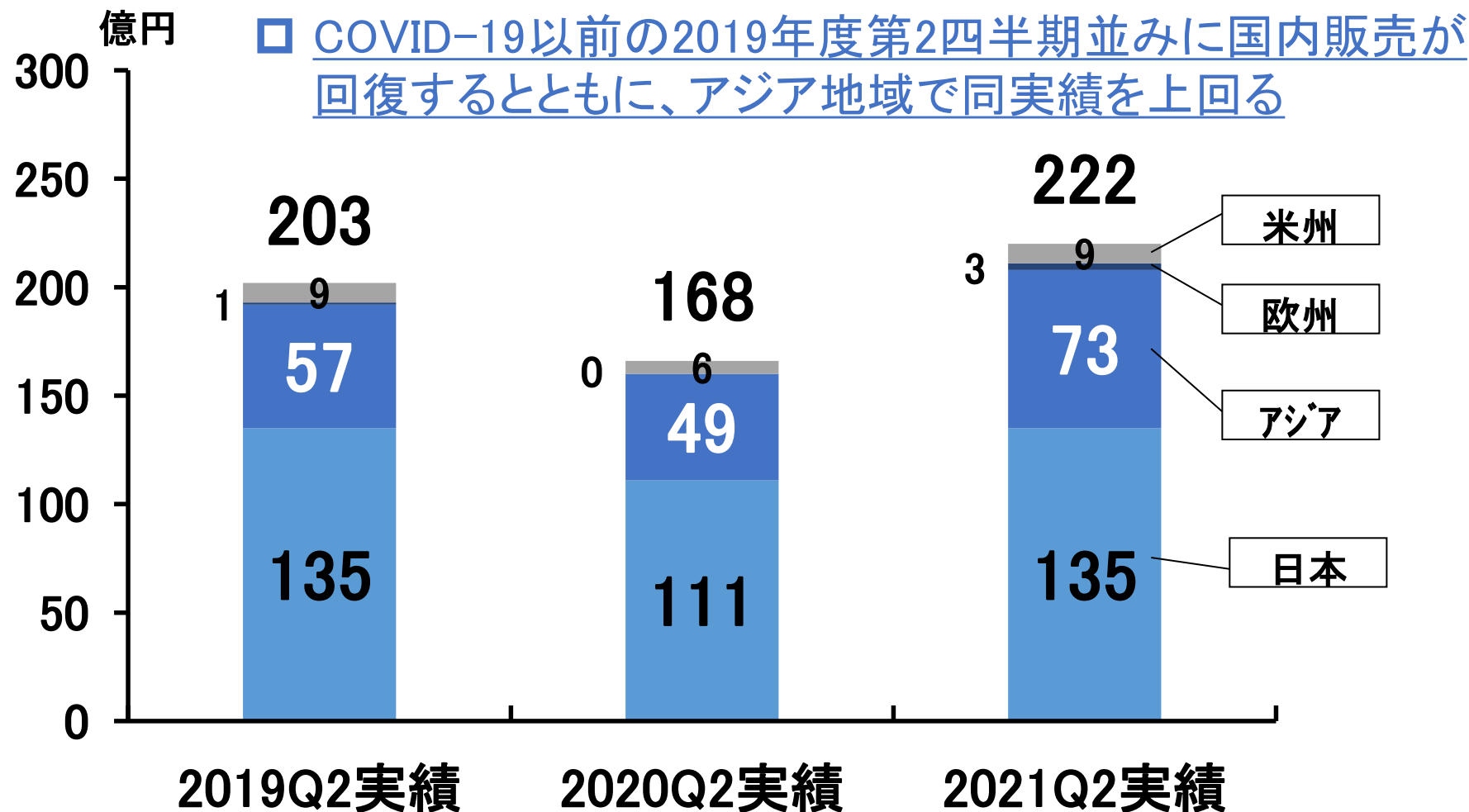
(単位;億円)	2020年度 第2四半期		2021年度 第2四半期		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
無機化学事業	216	△ 3	289	30	72	33
有機化学事業	251	4	256	16	5	11
その他	19	1	15	1	△ 4	0
合計	487	2	561	48	73	46

無機化学事業 営業利益増減要因

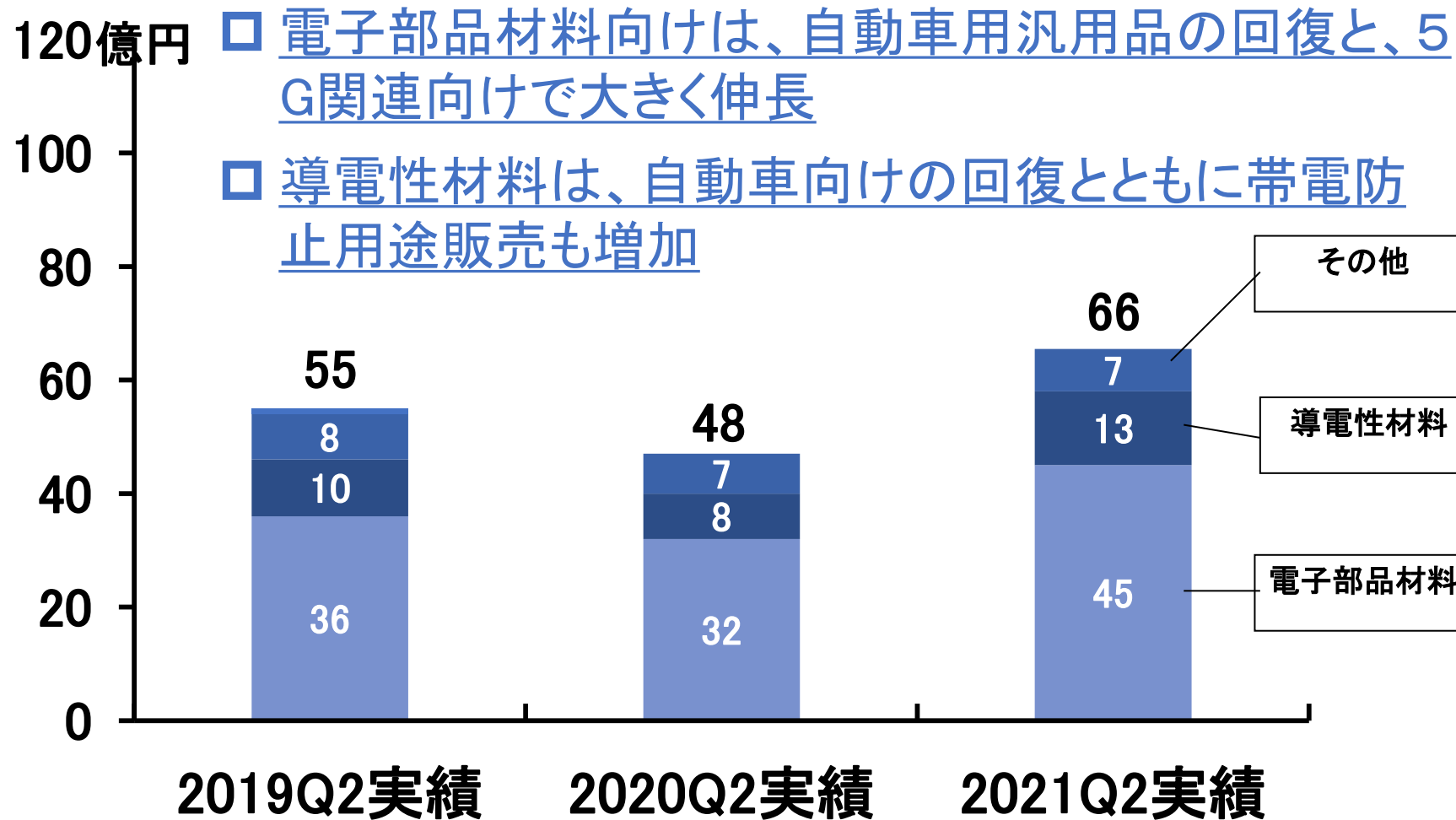
営業利益 億円



酸化チタン 地域別販売実績

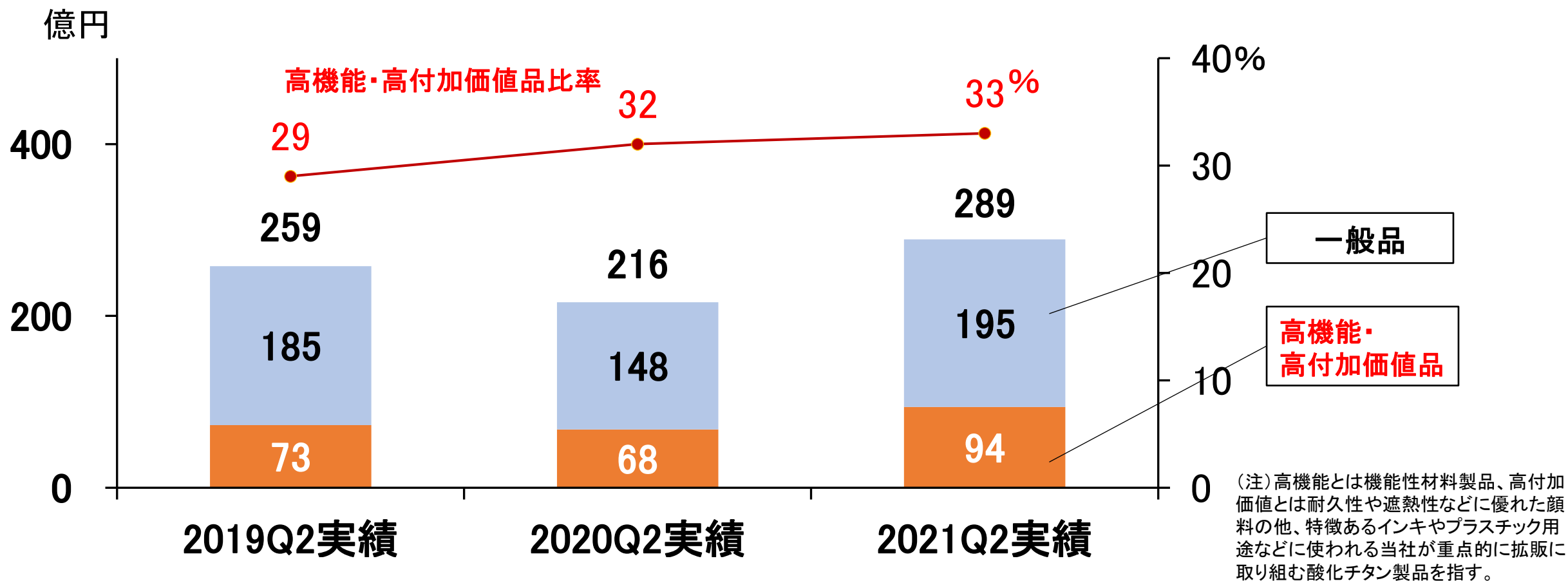


機能性材料 材料別販売実績



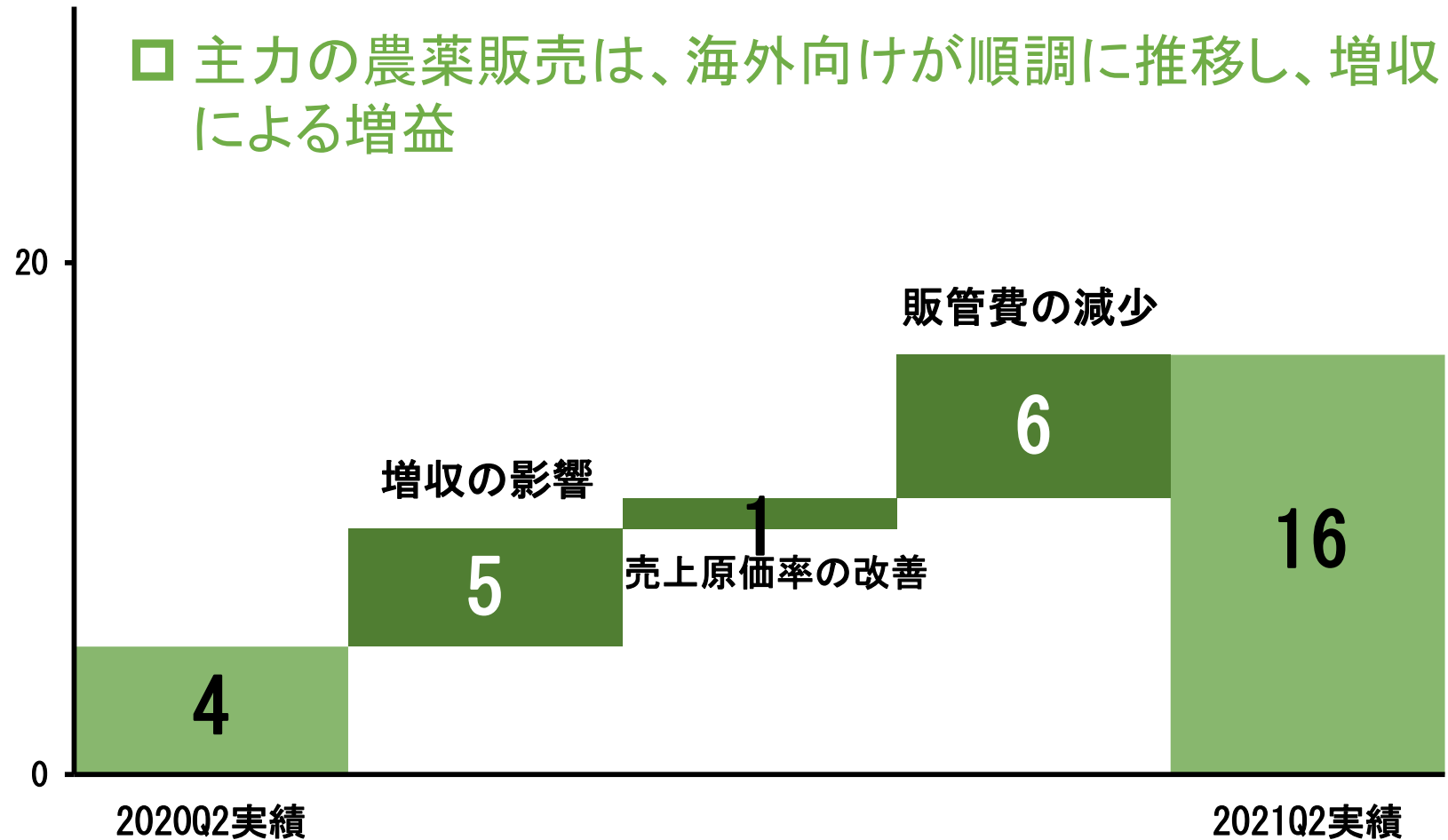
無機化学事業 高機能・高付加価値品販売比率

□ 高機能・高付加価値品の販売は順調に増加

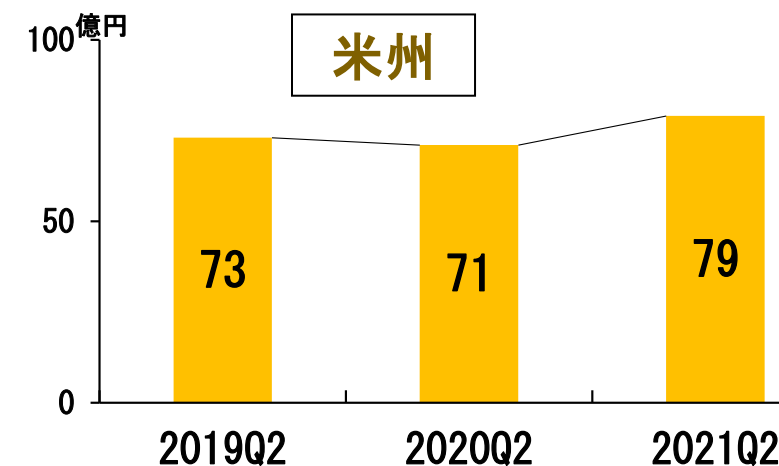
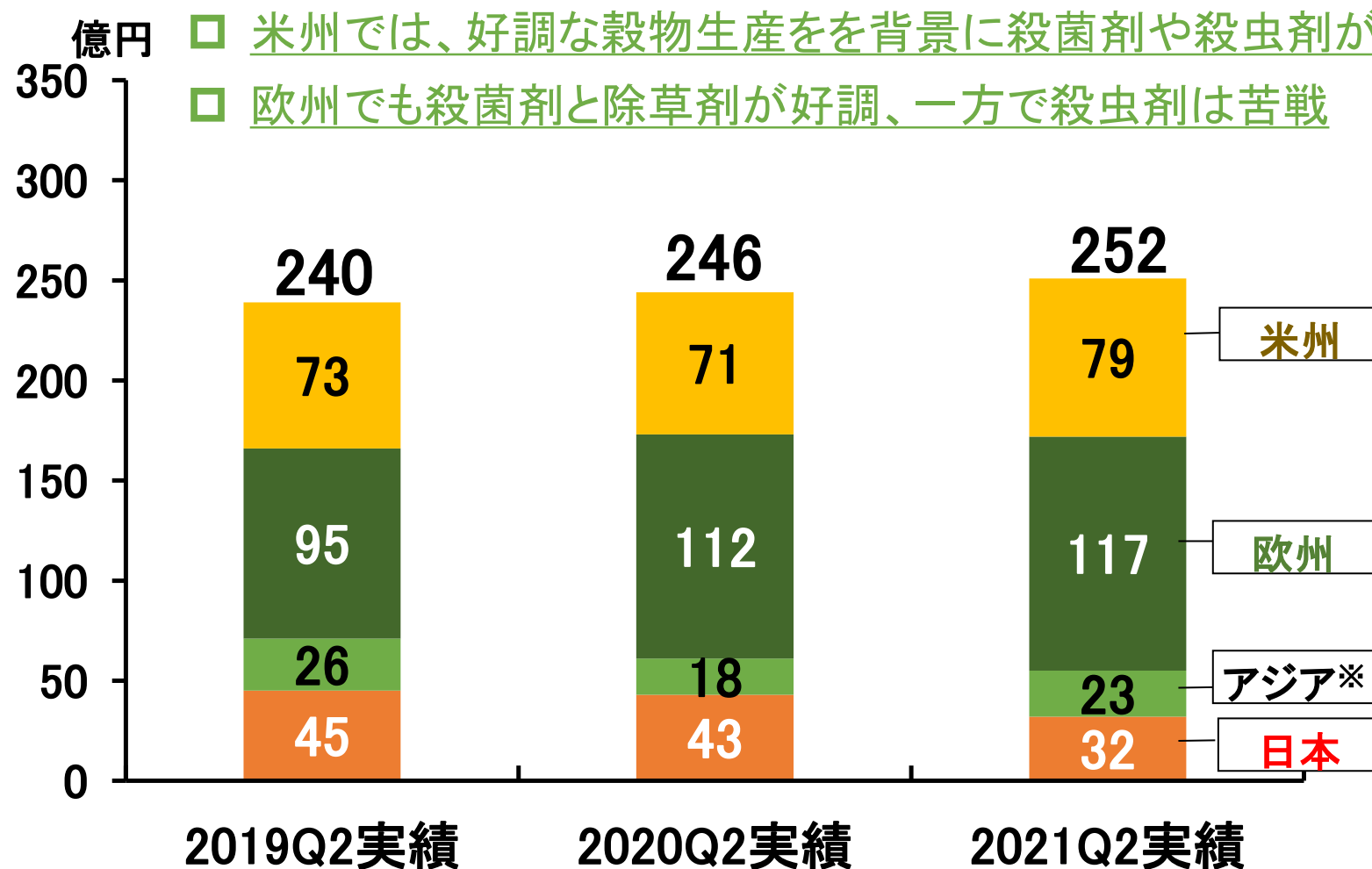


有機化学事業 営業利益増減要因

営業利益 億円



農薬 地域別販売実績



※アジアには、大洋州を含む。

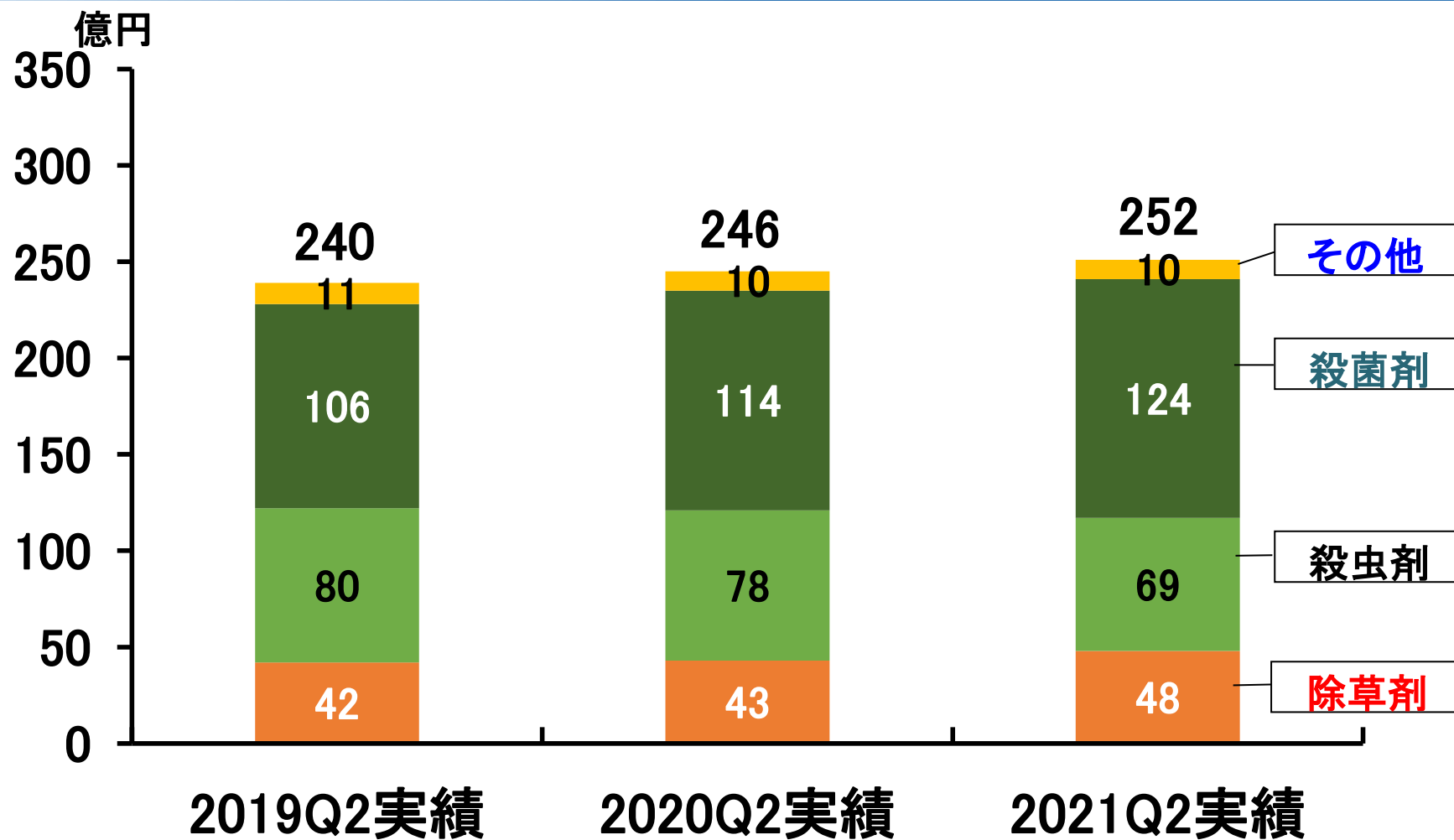
■ 2021年度第2四半期は収益認識基準の適用で△8億円の売上高差異が発生

農薬 用途別販売実績

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業



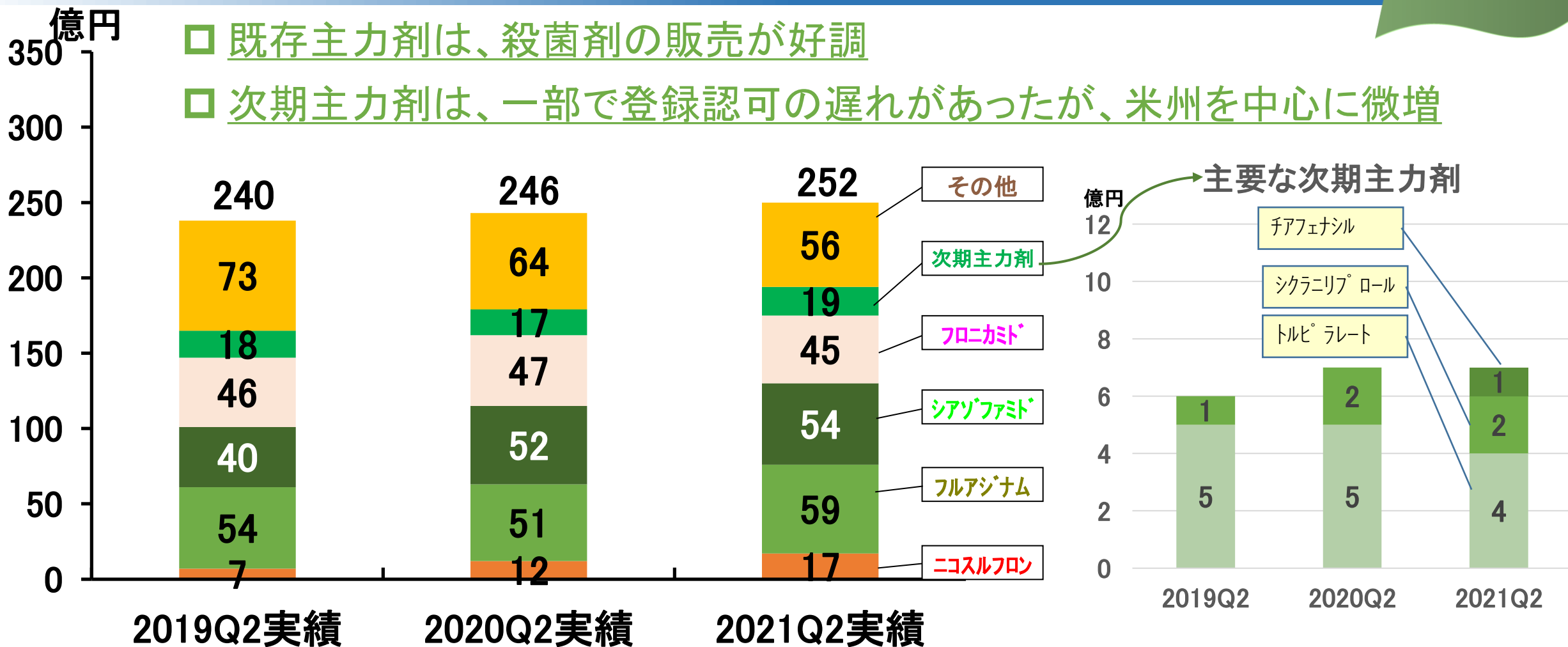
農薬 剤別販売実績

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業

- 既存主力剤は、殺菌剤の販売が好調
- 次期主力剤は、一部で登録認可の遅れがあったが、米州を中心に微増



営業外損益・特別損益

科目 (億円)		2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	増減
営業外	金融収支	△ 1	△ 1	0
	為替差損益	△ 1	2	3
	持分法利益	△ 3	△ 2	0
	その他	3	0	△ 3
	計	△ 2	△ 0	1

科目 (億円)		2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	増減
特別損益	固定資産処分損	△ 4	△ 3	0
	事業撤退損	△ 7	—	7
	債務免除益	—	5	5
	その他	—	1	1
	計	△ 11	2	14

2021年度 業績予想

為替レート	2020年度 実績	2021年度 修正予想	2021年度 当初予想
米ドル（円/U\$）	105.9	108.9	105.0
ユーロ（円/Eur）	123.6	129.7	128.0

2021年度 業績予想

- 足元では、サプライチェーンの混乱や世界的な燃料・資源価格の上昇など不透明感が増しているものの、当期への影響は限定的
- 第2四半期までの業績を踏まえて、予想数値を上方修正

(単位; 億円)	2020年度 実績	2021年度 修正予想	増減	2021年度 当初予想 (2021年5月)	差異
売上高	1,017	1,100	※ ー	1,030	70
営業利益	51	90	38	63	27
経常利益	59	85	25	47	38
純利益	33	65	31	36	29

※2021年度期首より「収益認識基準に関する会計基準」などを適用し、当該基準などに基づいた予想のため、売上高のみ対前年度増減額を記載していません。

2021年度 業績予想(事業別売上高・営業利益)

- 無機化学事業は、価格改定が浸透するなど堅調に推移
- 有機化学事業は、前年度並みの業績の見通し

(単位:億円)	2020年度 実績		2021年度 修正予想		増減		2021年度 当初予想 (2021年5月)		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	※売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
無機化学事業	498	△ 2	595	38	—	40	542	21	52	16
有機化学事業	483	51	477	49	—	△ 2	460	40	17	9
その他	35	3	28	3	—	0	28	2	0	0
合計	1,017	51	1,100	90	—	38	1,030	63	70	27

※2021年度期首より「収益認識基準に関する会計基準」などを適用し、当該基準などに基づいた予想のため、売上高のみ対前年度増減額を記載していません。

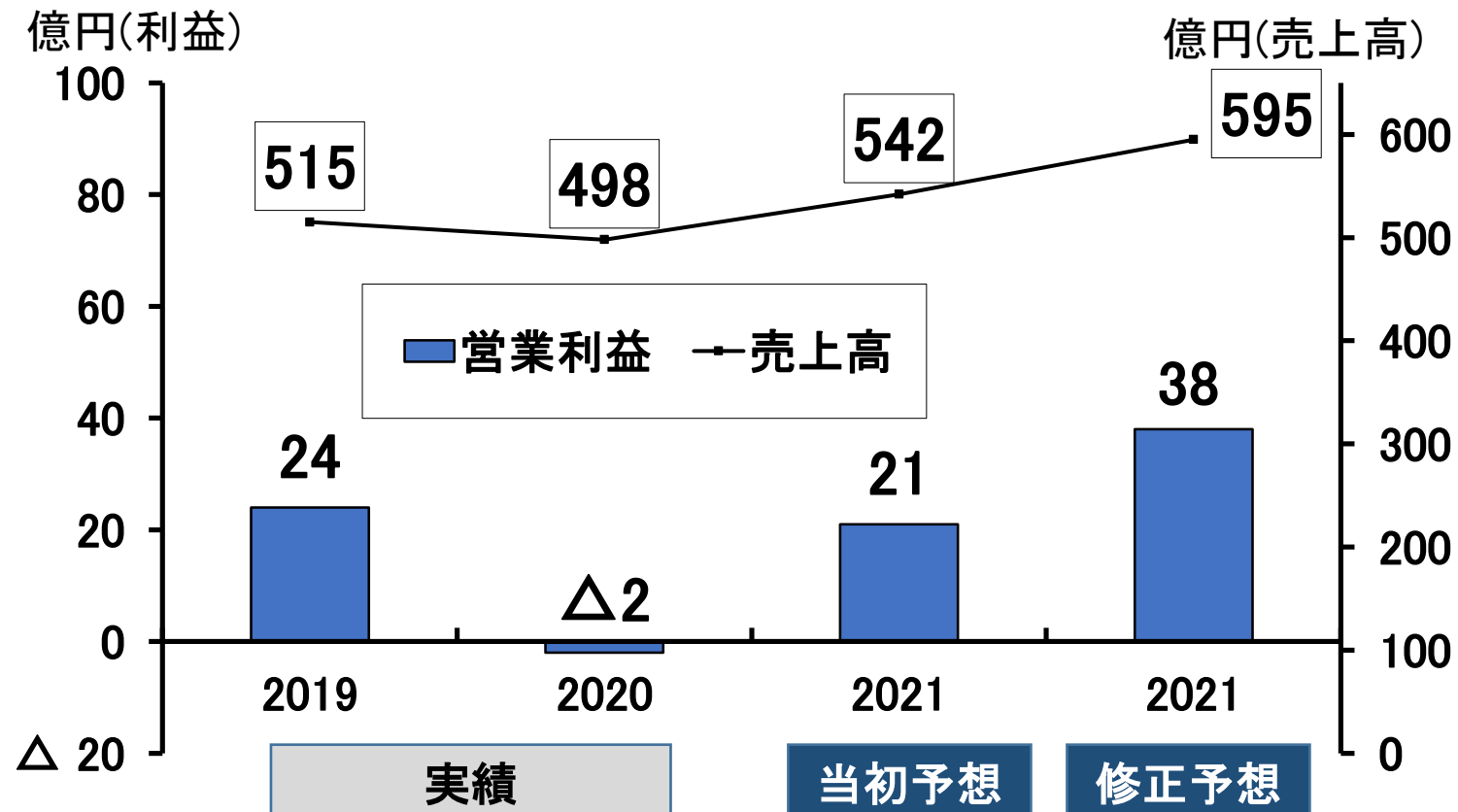
経営指標

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 修正予想	2021年度 当初予想 (2021年5月)
1株当り当期純利益(円)	59.0	84.4	162.7	90.1
自己資本利益率(ROE)	3.1%	4.3%	7.9%	4.4%
総資産営業利益率(ROA)	3.6%	2.9%	5.0%	3.5%
売上高営業利益率	6.1%	5.1%	8.2%	6.1%
自己資本比率	44.5%	44.2%	46.9%	46.1%
借入金依存度	30.5%	33.4%	27.7%	31.0%

事業別 業績概要

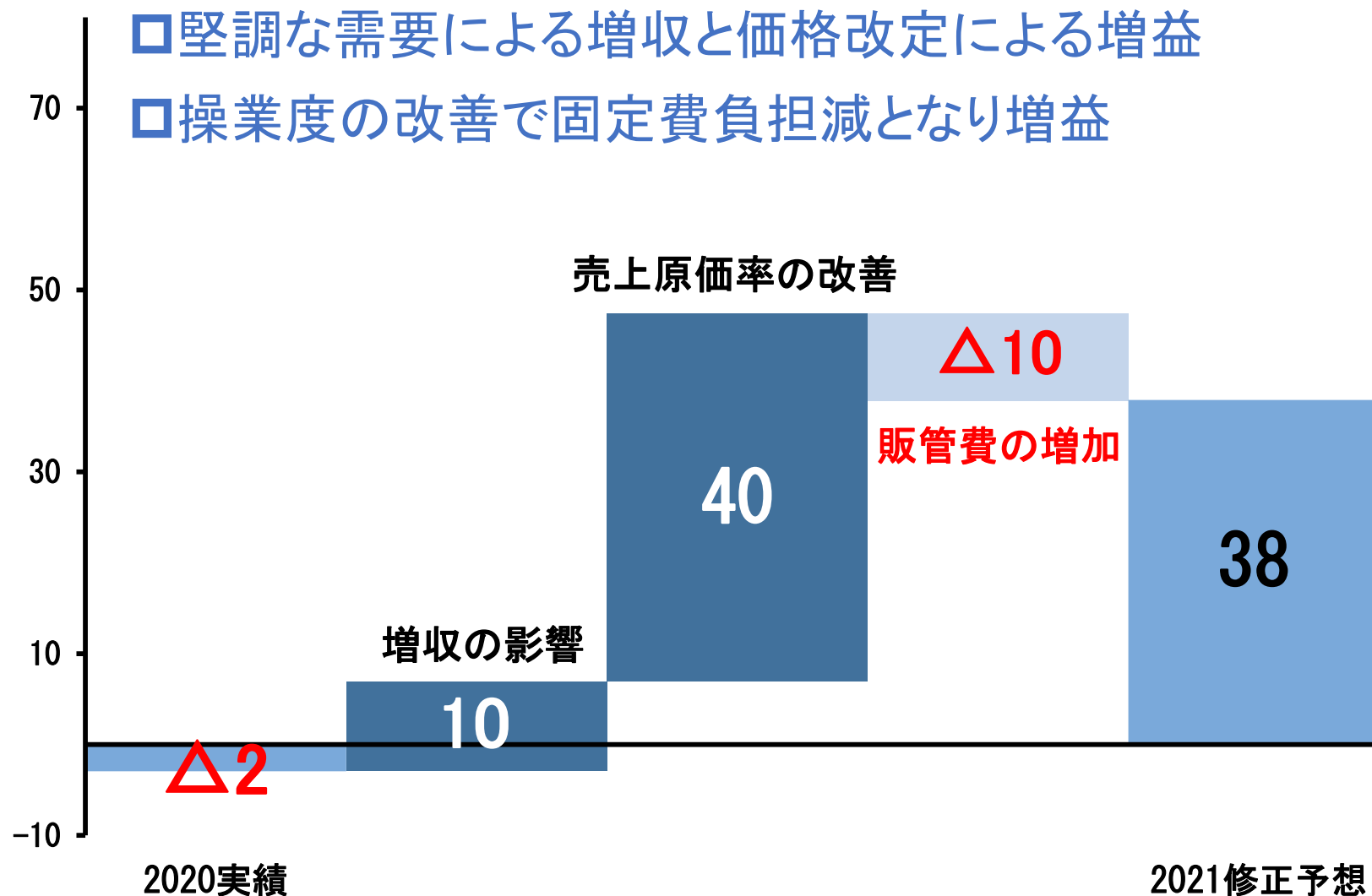
無機化学事業 業績計画

<事業環境の見通し> □ 企業活動の持ち直しにより、国内外での需要回復基調が継続



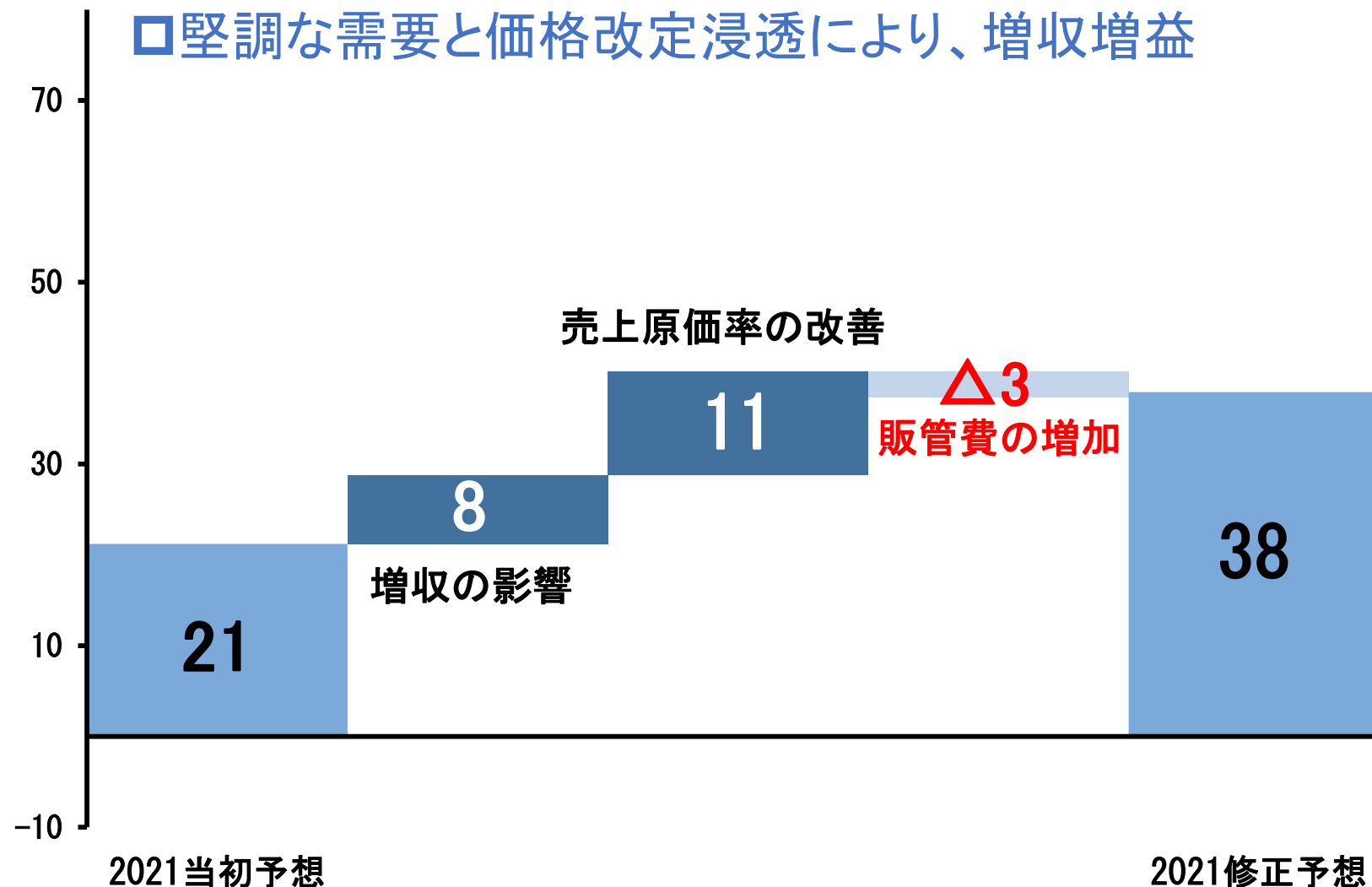
無機化学事業 営業利益増減要因

営業利益 億円

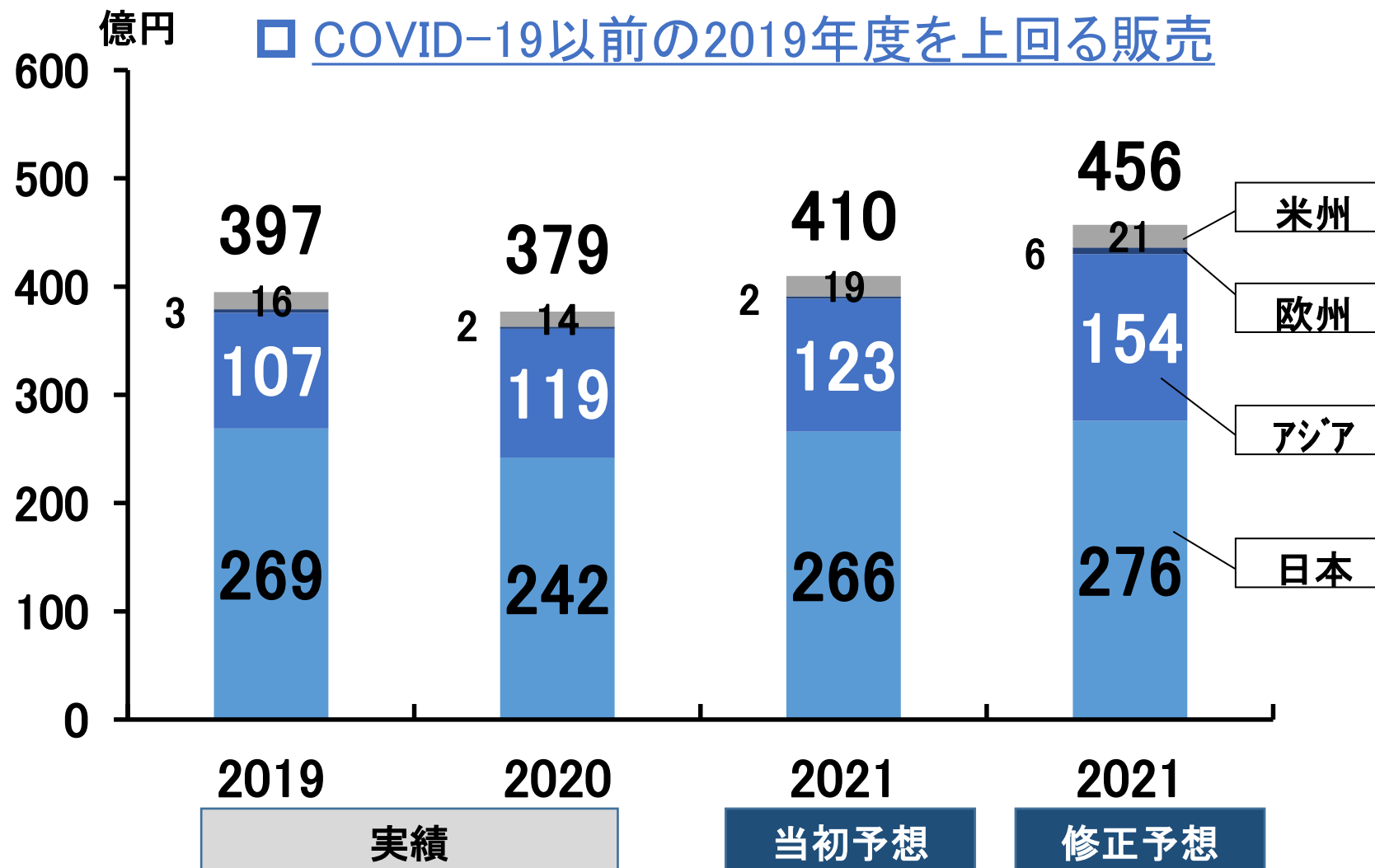
前年度実績
対比

無機化学事業 営業利益増減要因

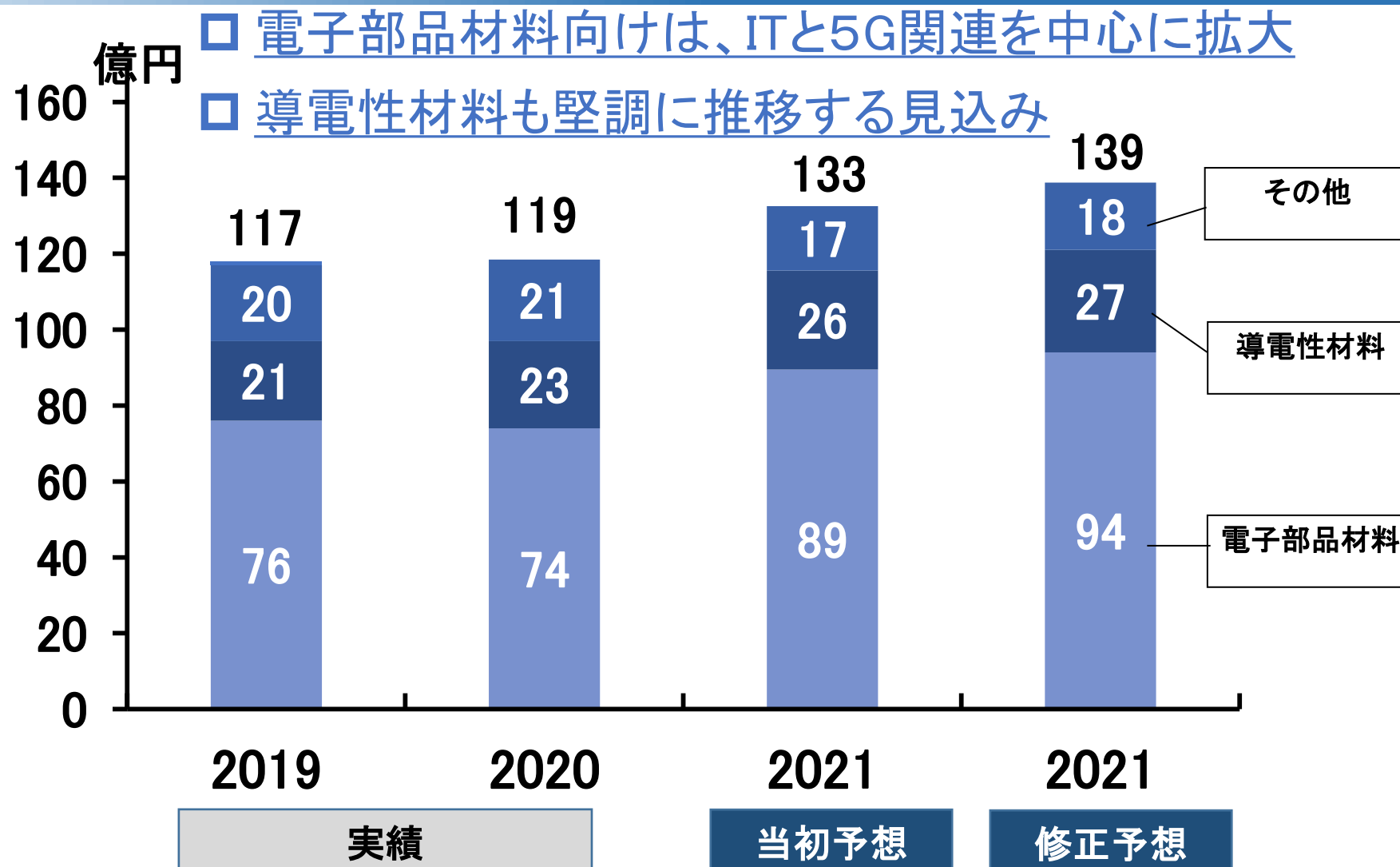
営業利益 億円

当初予想
対比

酸化チタン 地域別販売計画

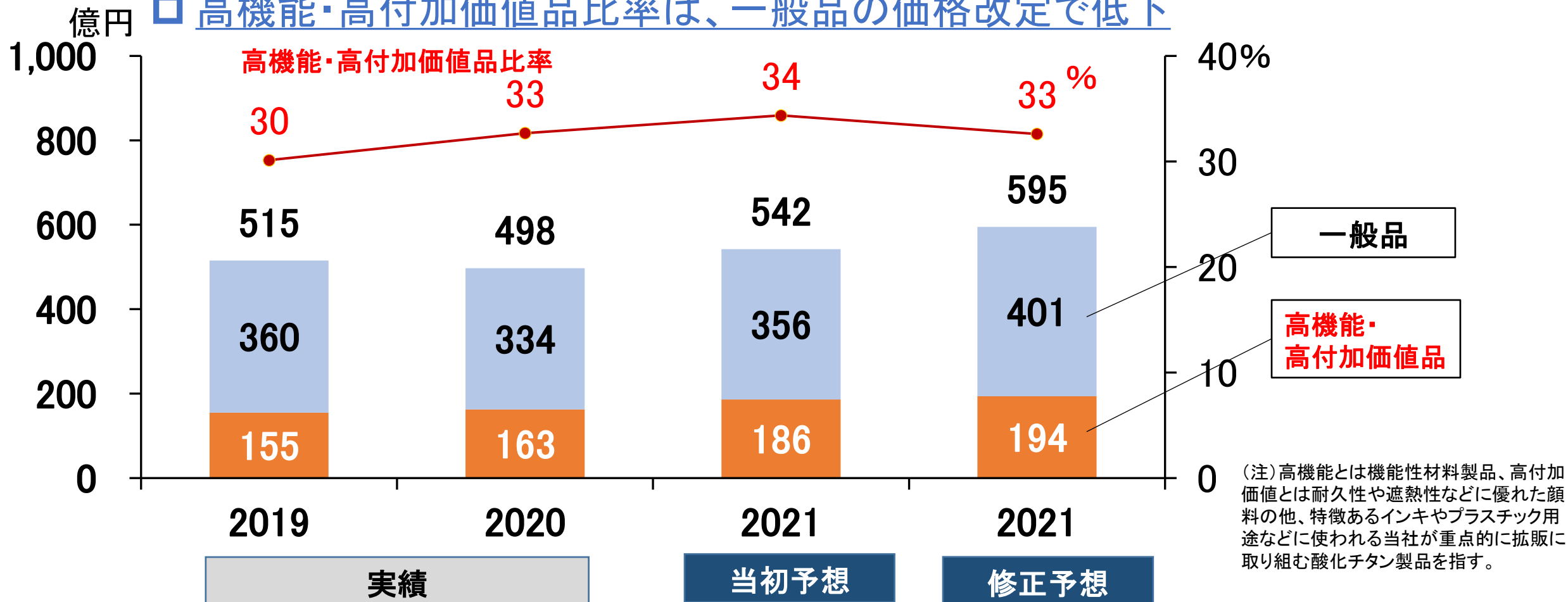


機能性材料 材料別販売計画



無機化学事業 高機能・高付加価値品販売比率

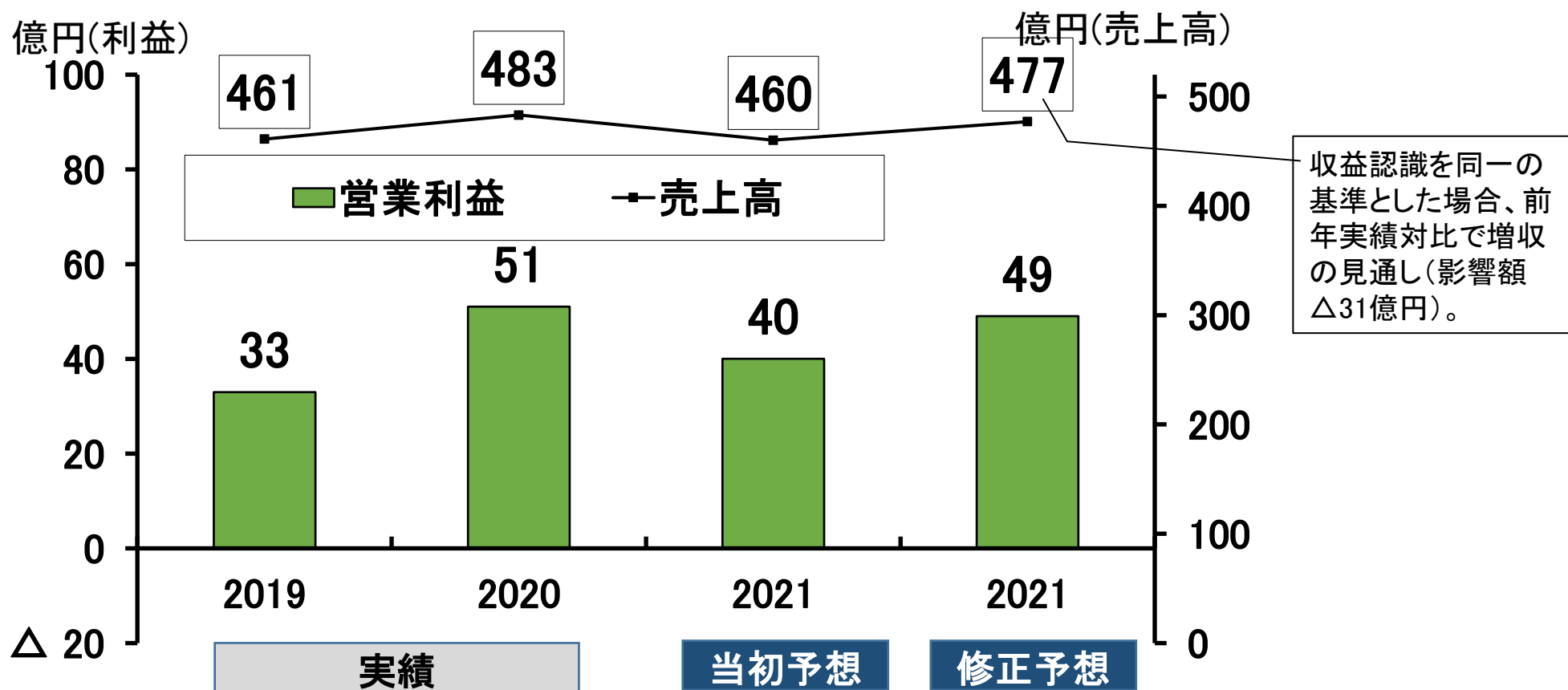
- 高機能・高付加価値品の販売が順調に伸張
- 高機能・高付加価値品比率は、一般品の価格改定で低下



有機化学事業 業績計画

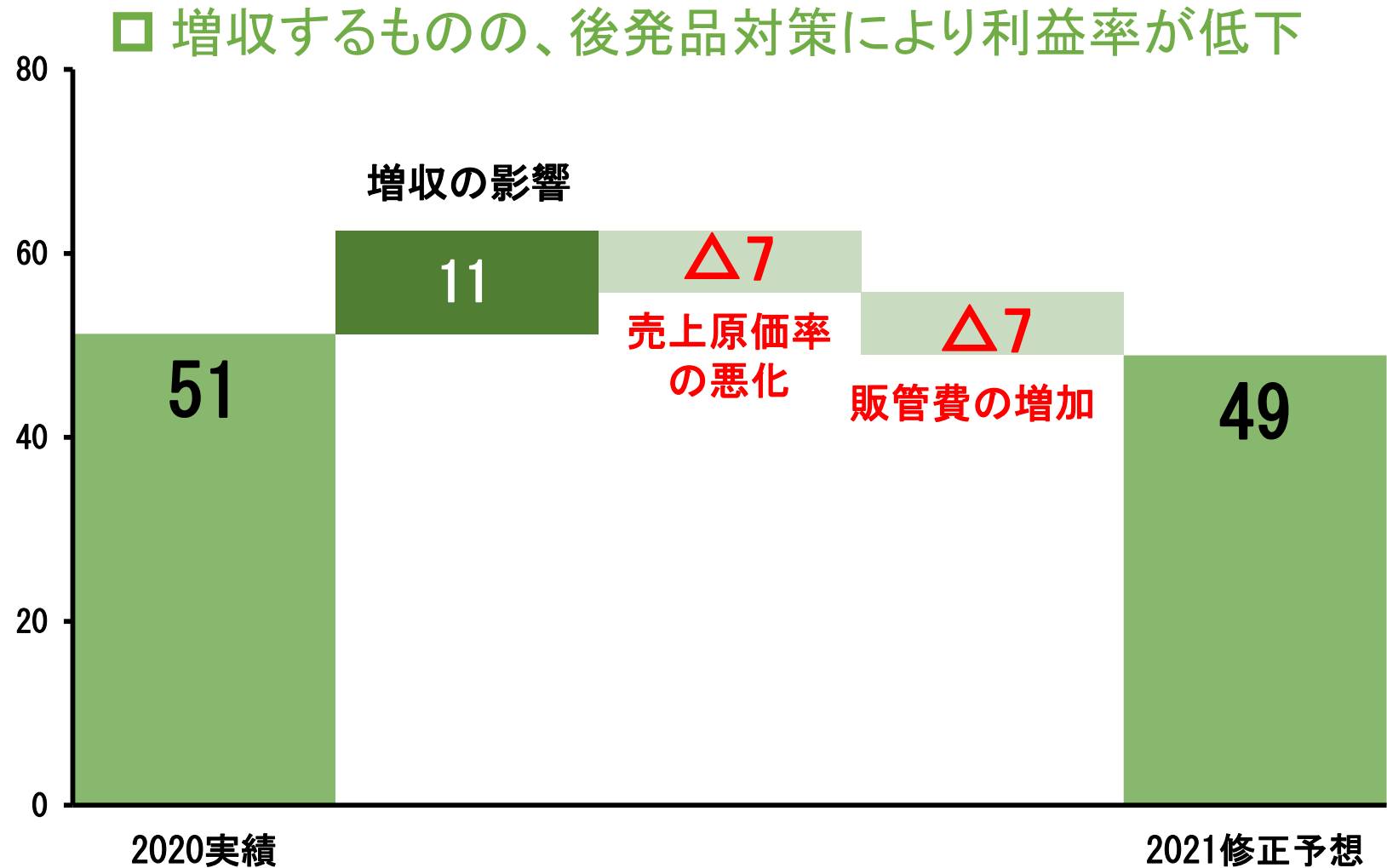
<事業環境の見通し>

□ 米州で活況を呈している穀物栽培が引き続きけん引し、殺菌剤などの需要が好調に推移する見通し



有機化学事業 営業利益増減要因

営業利益 億円

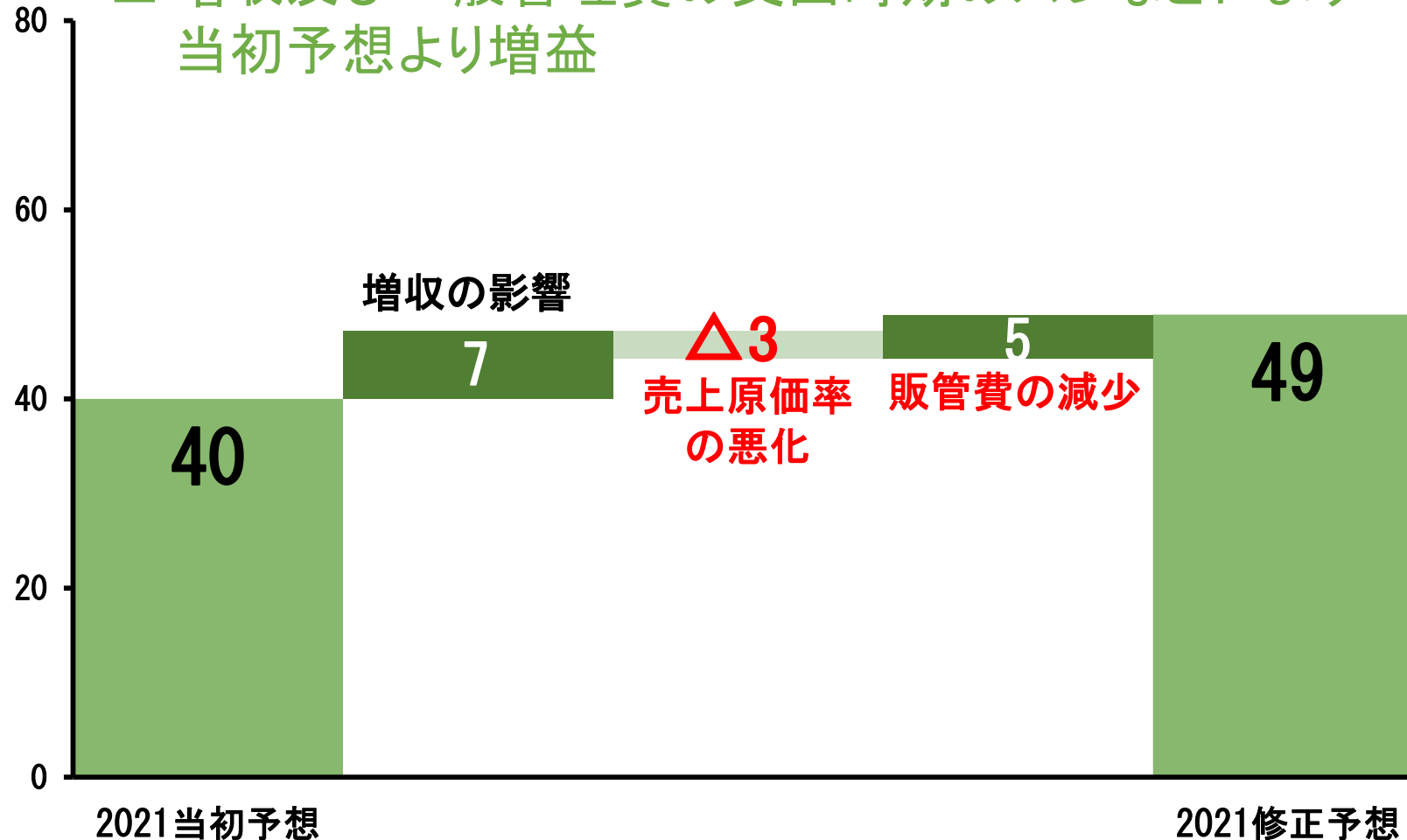
前年度実績
対比

有機化学事業 営業利益増減要因

営業利益 億円

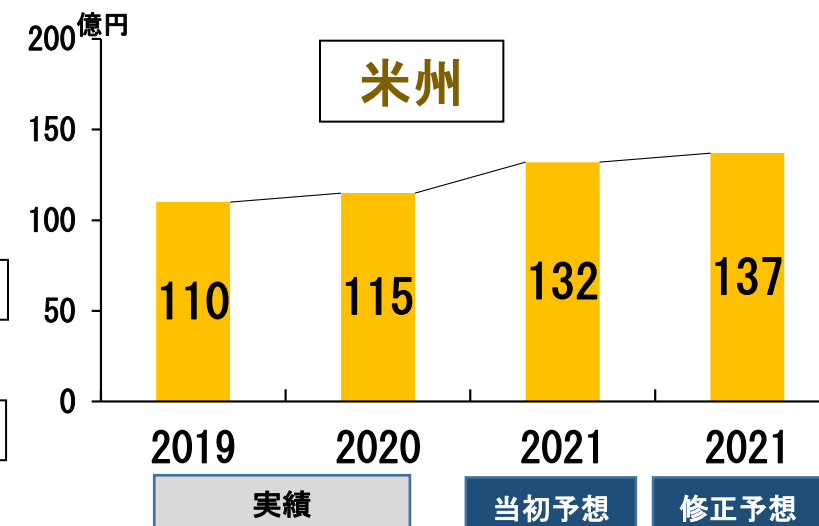
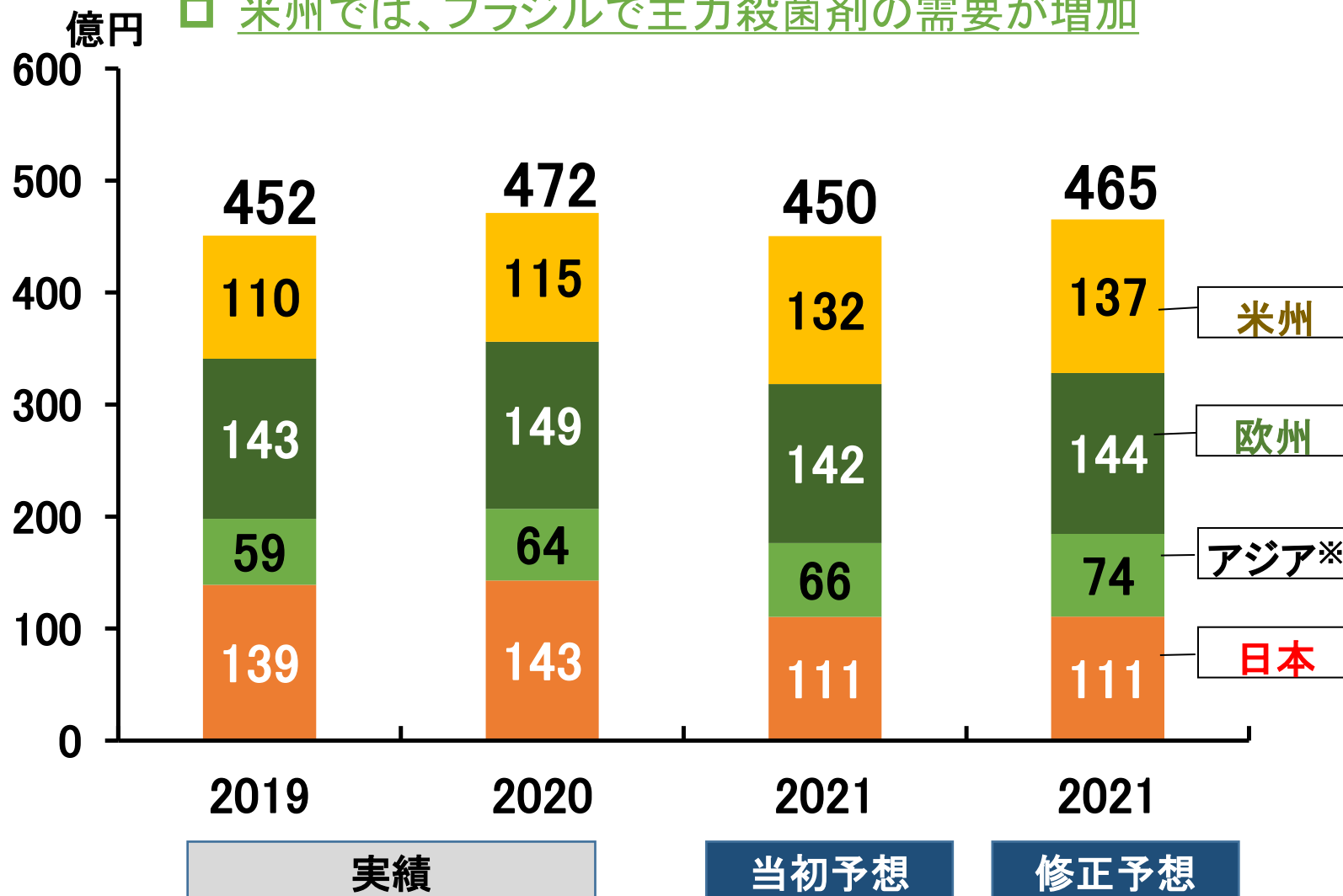
当初予想
対比

□ 増収及び一般管理費の支出時期のズレなどにより
当初予想より増益



農薬 地域別販売計画

□ 米州では、ブラジルで主力殺菌剤の需要が増加



※アジアには、大洋州を含む。

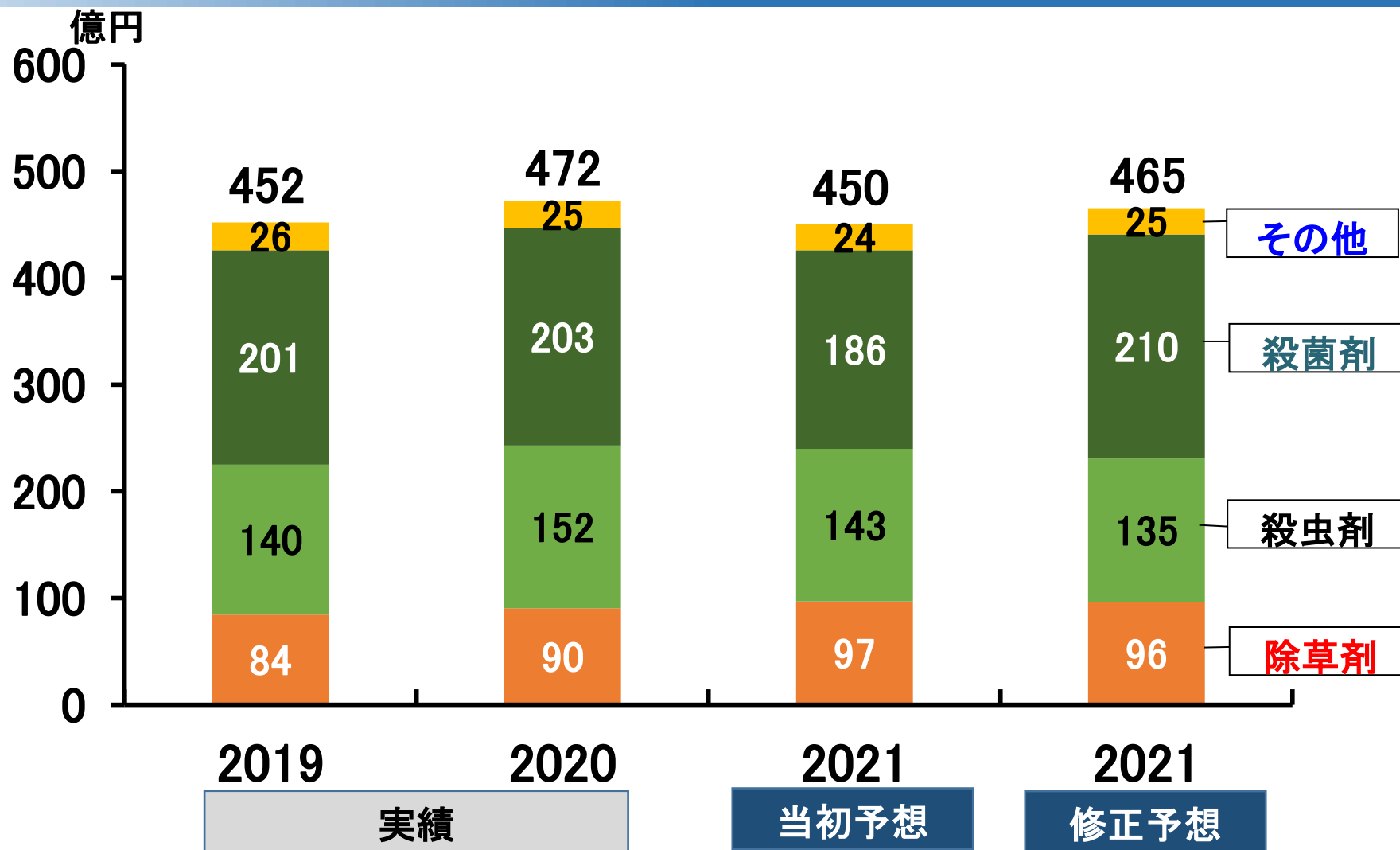
■ 2021年度は収益認識基準の適用で△31億円の売上高差異が発生

農薬 用途別販売計画

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業



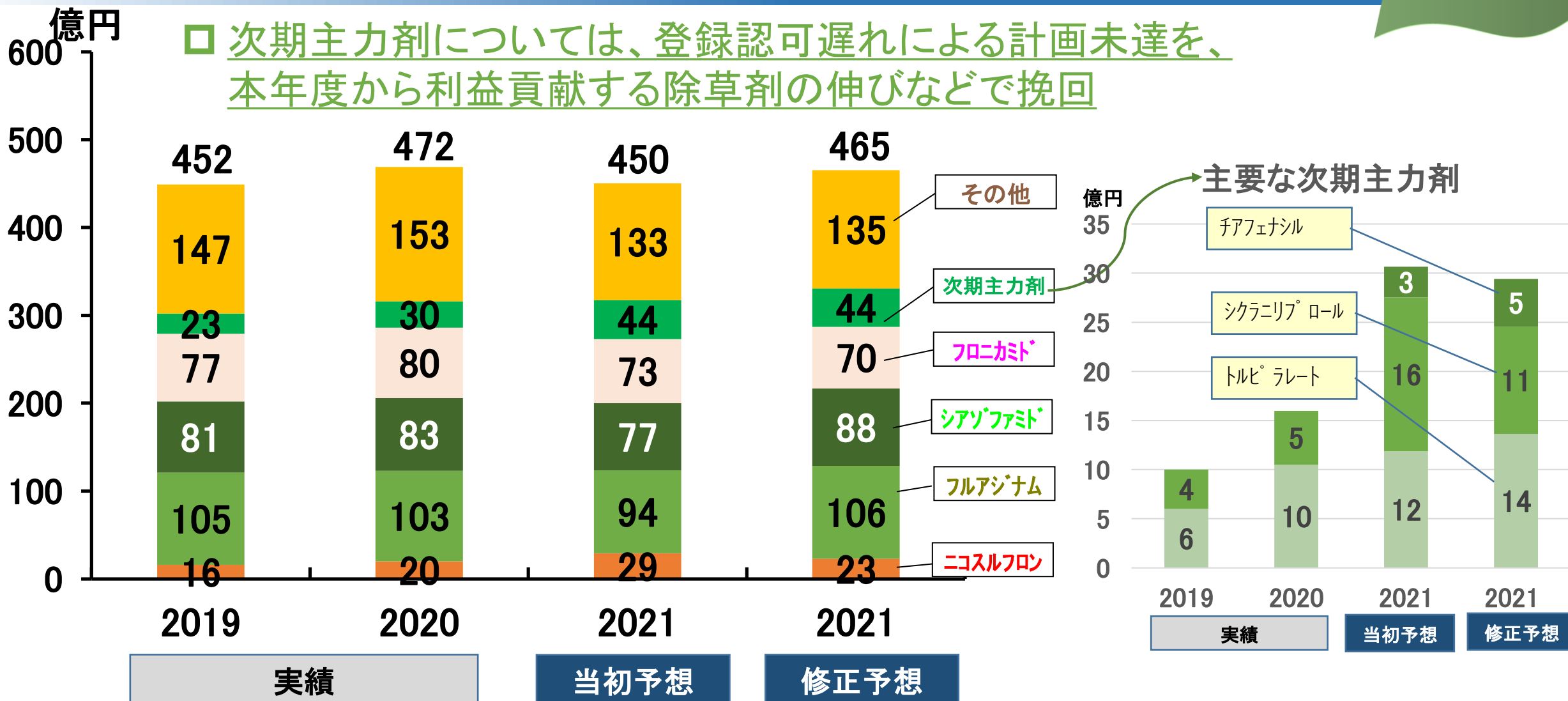
農薬 剤別販売計画

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

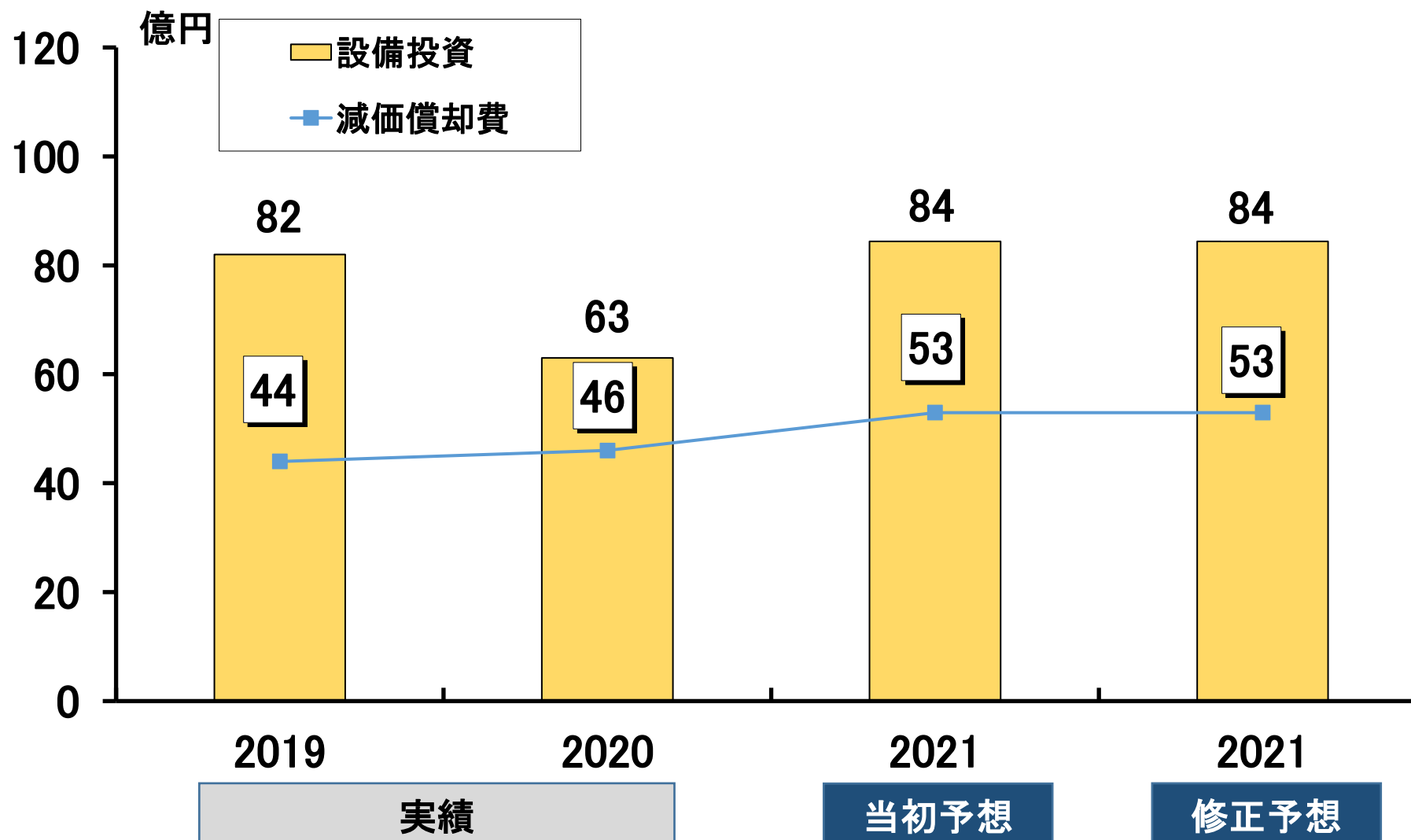
有機化学事業

□ 次期主力剤については、登録認可遅れによる計画未達を、
本年度から利益貢献する除草剤の伸びなどで挽回

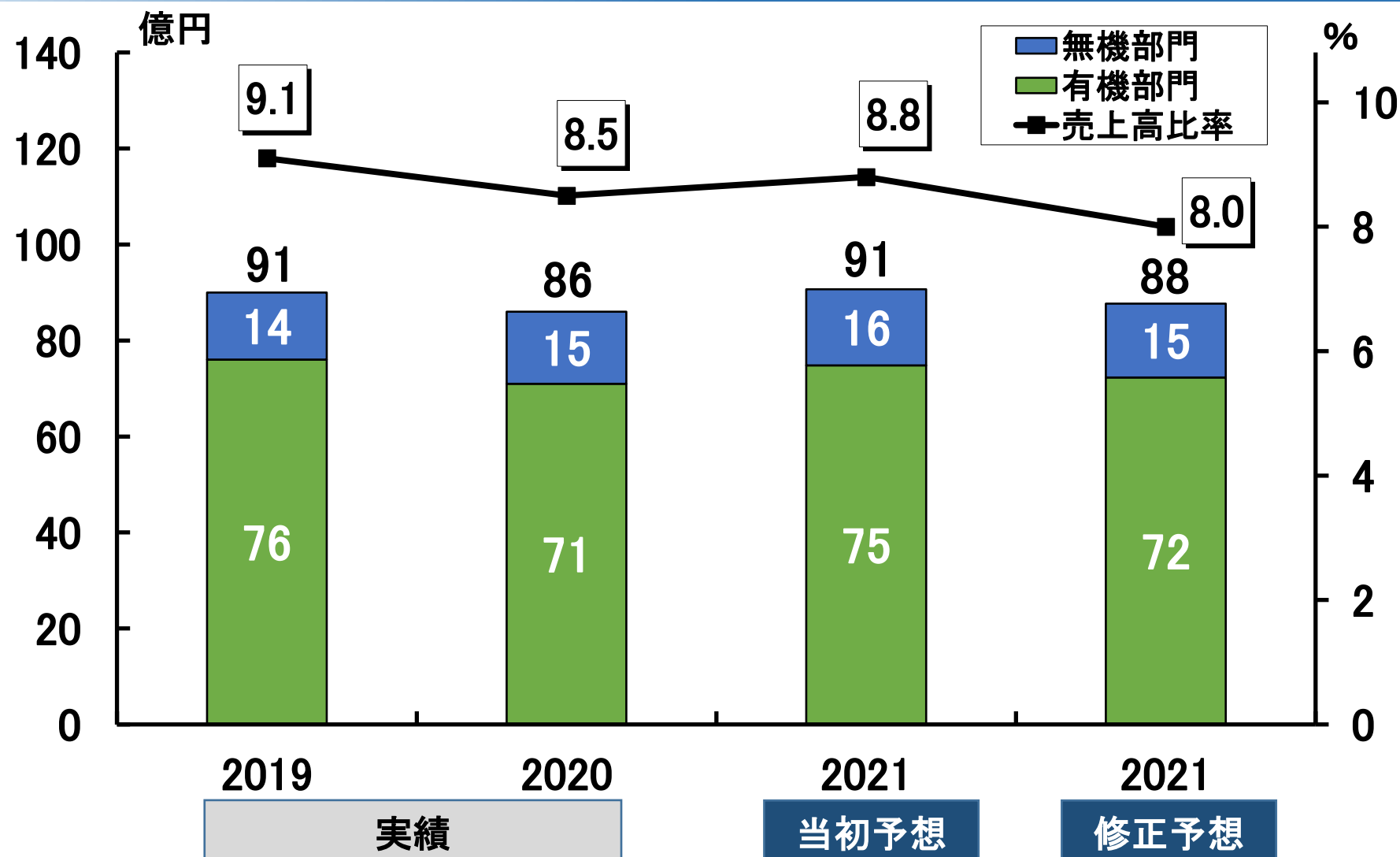


付属資料

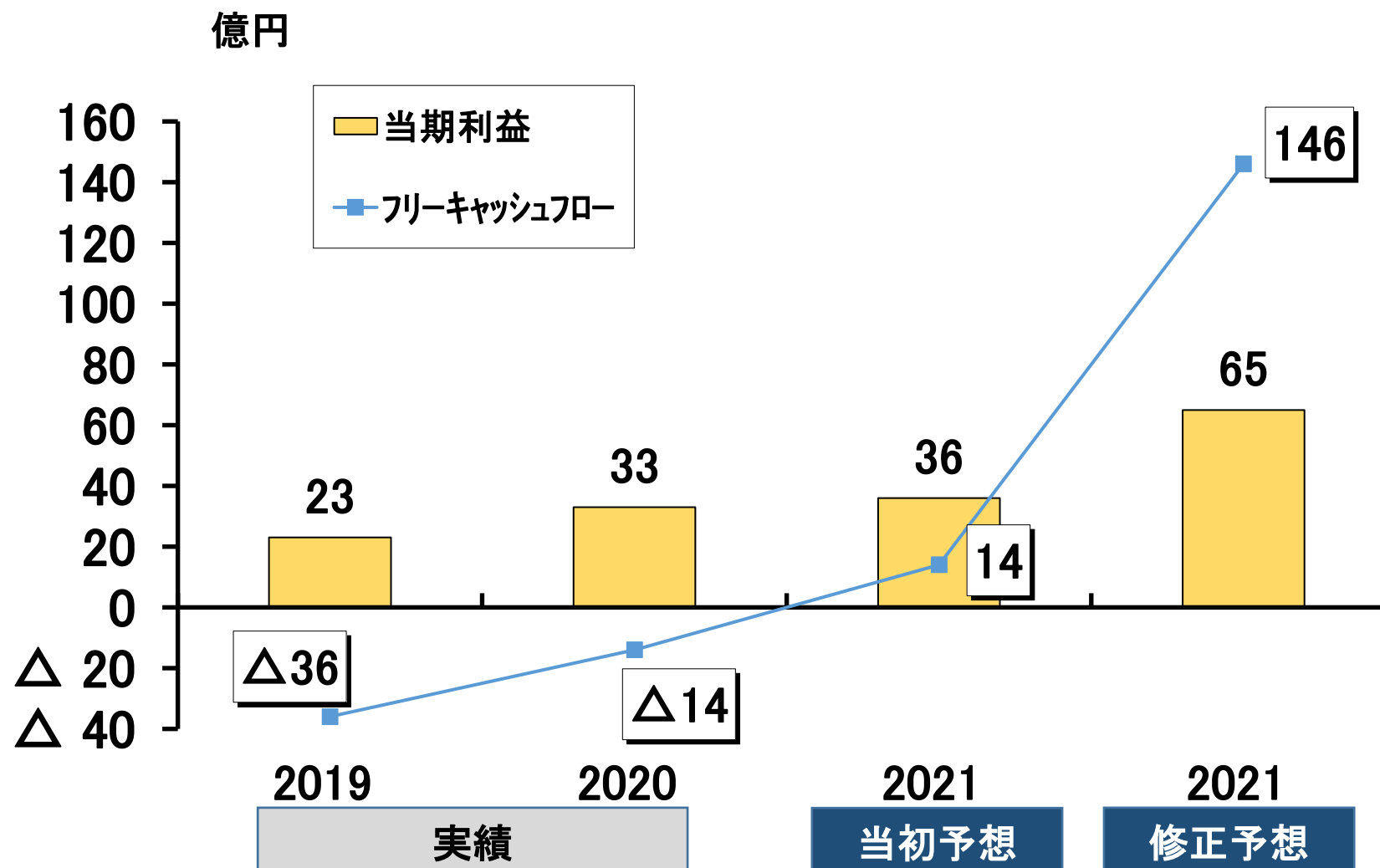
設備投資・減価償却費



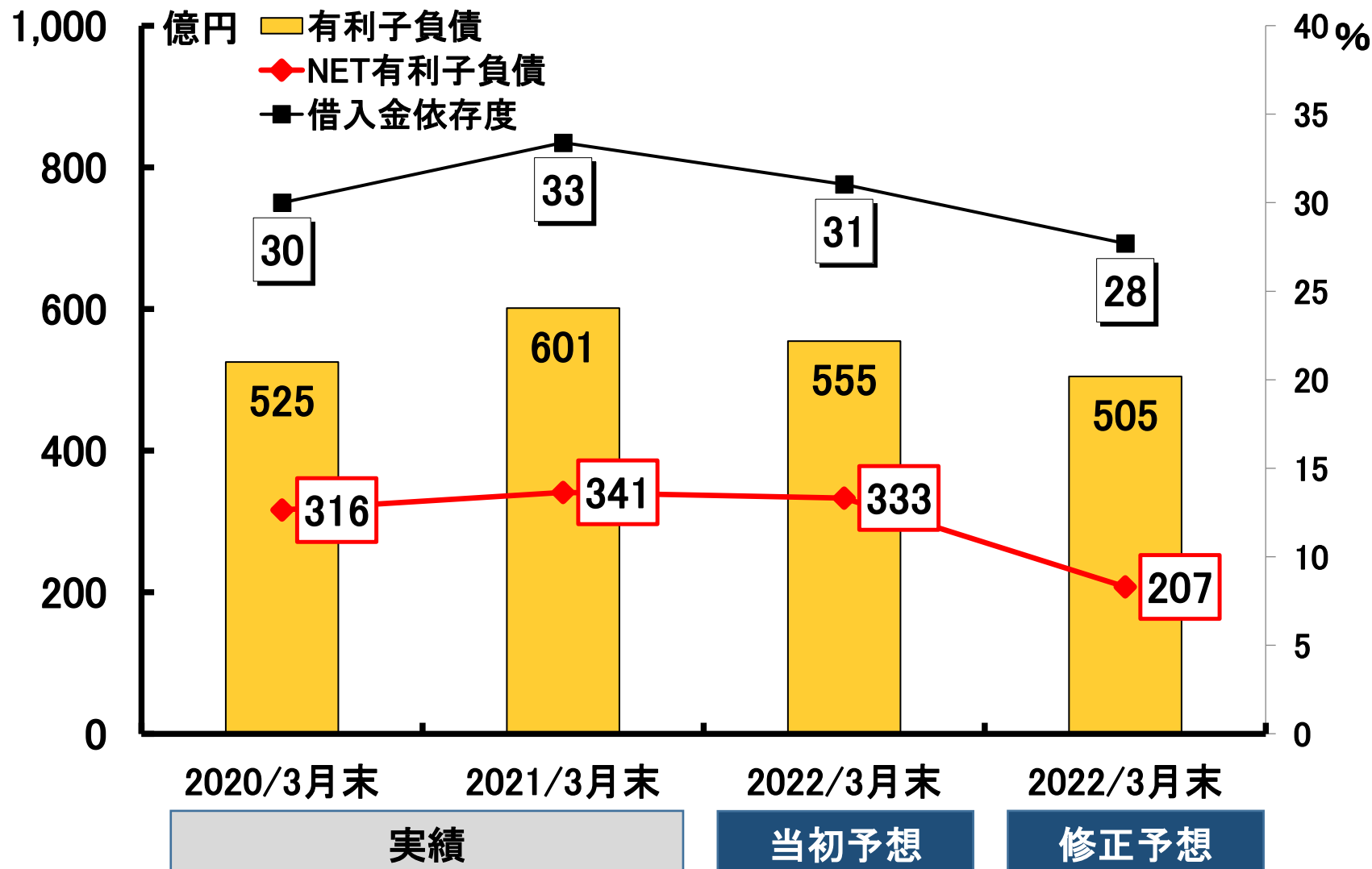
研究開発費



フリーキャッシュフロー



有利子負債残高



株主 / 顧客・取引先 / 地域社会 / 従業員

Vision 2030

「独創・加速・グローバル。化学の力で暮らしを変える。」

中期経営計画「Vision 2030 Stage I」

(2021～2023年度)

基本方針

ESG・SDGs視点での経営の取り組み強化を推進することにより、サステナブルな企業価値創造を目指す。

将来に関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料に含まれる将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づき予想または予測し記載しているものであり、様々なリスクや不確定な要因を含んでおります。従って、実際の業績等は、ここに記載する将来に関する記述とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。